

*

国立西洋美術館年報

NO.14

*

ANNUAL BULLETIN
OF
THE NATIONAL MUSEUM OF WESTERN ART

*

Bulletin Annuel du Musée National d'Art Occidental

TOKYO 1980

*

国立西洋美術館年報

NO.14

(昭和54年度)



新収作品：ジョルジオ・ヴァザーリ 《ゲッセマネの祈り》

目次

昭和54年度の新収作品（絵画）について——4
New acquisitions (Painting)

新収作品目録——14
New acquisitions (Catalogue)

研修報告

ウィーン美術大学保存技術学科

——ヨーロッパにおける修復家養成教育の一例—— 長谷川三郎——28

Meisterschule für Konservierung und Technologie an der Hochschule
„Akademie der bildenden Künste“ in Wien

——ein Beispiel der Ausbildung von Restauratoren in Europa——

von Saburoh HASEGAWA

昭和54年度事業記録：

修復記録・特別展記録・講演会記録——57

資料：

昭和54年度主要記事・歳入実績額・歳出予算額・観覧者一覧表

所蔵作品一覧・職員名簿——61

国立西洋美術館は、昭和54年度に1億6,060万円の購入費をもって、絵画5点、素描1点、版画3点を購入し、さらに、絵画1点、版画4点の寄贈を受けた。これらの作品のデータについては、別項の新収作品目録に譲って、ここでは、油彩画作品についてのみ簡単に解説したい。

レオンブルーノ・ダ・マントヴァ

《キリスト降誕》

ロレンツォ・レオンブルーノの生涯およびその制作活動に関しては多くは知られていない。初期を生地マントヴァで過ごしたのち、1504年にイザベラ・デステ・ゴンザーガの仲介でフィレンツェに赴き、ウンブリア派の画家ベルギーノの工房を訪れている。1506年、マントヴァに戻り、1511年以降、歿するまでゴンザーガ家の宮廷画家として活躍した。その間、1511年にヴェネツィア、1521年にローマに旅行し研鑽を積んだ。1524年にはジュリオ・ロマーノの指揮のもと、バラッツォ・ディ・マルミローロの回廊の装飾に携り、またミラーノでも仕事をしたことが伝えられている。彼が影響を受けた画家として、ロレンツォ・コスタ、マンテーニャ、コレッジオ、ジュリオ・ロマーノなどの名があげられている。

この《キリスト降誕》はヴァーゲン博士の著『大英帝国の美術品』(1854)で初めて公けにされたが、当時署名が塗り潰されていたのか、北イタリアの画家ガウデンツィオ・フェラーリの作とされた(それ以前はベルギーノに帰されていたらしい)。構図は厩の前に聖家族のいる前景から、天使に導かれて扉越しに彼らを覗き見

る羊飼いたちの中景、そして民家や、濛を廻らされた城から厳しい岩山へと続く遠景へと自然に展開し、色彩は鮮やかで変化に富んでいる。前景の人物にはコレッジオの影響が認められる一方、左背後の魅力ある風景描写にはミニアチュール画家としての彼の繊細な感覚と、北方、特にフランドルの技法が窺見される。今日あるレオンブルーノの確実なタブロー画は、マンテーニャ風にモノクロームで描かれた《誹謗》(ミラーノ、ブレラ美術館)、《寓意》(フィレンツェ、ウフィーツィ美術館)、《ミダスの審判》(ベルリン、国立絵画館)など数点しかないので、本作品は小品ながらもその貴重な一点と言えよう。

ナティエ

《マリーニアンリエット＝ベルトレ・ド・ブルヌフ夫人の肖像》

1739年

ジャン＝マルク・ナティエは、1685年3月17日パリに生まれ、1766年11月7日に同地で歿した。父のマルク・ナティエは肖像画家、母のマリー・クルトワは細密画家であった。彼は両親について絵を習い、1703年王立アカデミーに入学。またその直後ルイ十四世の許しを得て、リュクサンブール宮殿にあったルーベンスの連作《マリー・ド・メディシスの生涯》を版画にするため、兄のジャン＝バティストと協力して、その下絵素描を制作している。その後は、1745年フランスの宮廷画家となる一方、1746年フランス王立アカデミーの準教授、1752年教授に就任した。またその間、彼は歴史画のほか肖像画

にも優れていたことから、1715年アムステルダムやハーグに呼ばれて、西ヨーロッパ歴訪中のビョートル大帝をはじめとするロシア宮廷の人々の肖像を描いている。フランスで王妃や王女をはじめ多くの貴婦人の肖像画を残したことは言うまでもない。

彼はニコラ・ド・ラルジリエールの影響を受けて、宮廷の貴婦人たちを神話の中の人物の姿を借りて描くというフォンテーヌブロー派の伝統を復活させた。画面左下に描き添えた水瓶に Nattier p. / 1739 という署名年記のあるこの肖像画も、モデルを川ないし泉の女神に擬して描いており、この系列に属する作品といえよう。

本作品の来歴は別記のとおりであるが、最初はこの絵のモデルであったド・ブルヌフ夫人のもとにあった。

デュビュッフェ

《美しい尾の牝牛》

1954年

第二次大戦後の1954年11月の制作になるジャン・デュビュッフェ作《美しい尾の牝牛》は、文字通り現代芸術の一焦点を示す作例として、ルネッサンス以後近代にかけての作品を主体とする当館の収蔵品中では時代的にとび離れているが、寄贈者平野逸朗氏の特別の意志によって当館が受理することになったものである。もともと当館には同じ作者による《ご婦人のからだ》(1950年作、山村コレクション)があるので、戦後美術の展開に重要な役割を果たしたデュビュッフェの作品が、これによって計2点に増えたことになる。しかも《ご婦人のからだ》が作者

のいわゆる「人体シリーズ」中の佳作であるのに対して、今回寄贈された作品はそれに続く「牝牛シリーズ」中の代表作であるという関係から、多彩な創作をすすめたこの作者の一時期の仕事ぶりが連続的、発展的に眺められるようになった点で、大変幸いであったと言わなければならない。伝統や教養を否定する「生の芸術」の提唱者である作者はここで、野性にみちた有機的生命体である牝牛を、児童画にも似た自由さで把え、基本的形態と純色の交錯により極めて大胆卒直に描き表わしている。

ヴァザーリ

《ゲッセマネの祈り》

1545/46年頃

「ゲッセマネの祈り」を主題とするヴァザーリの絵画作品が少くとも4点あったことは、彼の『美術家列伝』中の自伝、および覚書、書簡等から知られる。この4点の《ゲッセマネの祈り》に該当する作品は現在のところ発見されず、ヴァザーリ研究で著名なバオラ・バロッキもそれらを彼の消失絵画作品リストに含めている(P. Barocchi, "Complementi al Vasari pittore", in: *Atti dell'Accademia toscana di scienze e lettere, La Colombaria*, XXVIII, 1963-64, p. 293.)。ところでバロッキは上記4点の《ゲッセマネの祈り》のうち、ヴァザーリが1545年にローマでラファエル・アッチァイウオーリ Raffaello Acciaiuoli のために描いた作品に関連する素描として、大英博物館所蔵のクリストーフ・ゲラルディ (Cristofano Gherardi, 1508-1556) に帰されているものと、ルーヴル美術館所蔵の

ヴァザーリ自身の手になるものとをあげている (P. Barocchi, *Vasari Pittore*, Milano 1964, pp. 130-131)。両素描とも画面手前に眠り込んだペテロ、ヤコブ、ヨハネの三使徒、彼らの背後の祈るキリスト、その頭上で盃を取り彼を力づける飛翔天使、画面片隅のユグに導かれて剣や棒を手にした群衆といったモチーフをほぼ同じ構図にまとめ、様式的にも近い。クリストーフ・ゲラルディ通称ドチェーノはヴァザーリの良き協力者であり、ヴァザーリの1543年からのローマ、ナポリにおける制作活動にも参加している。《ゲッセマネの祈り》を含めて「キリスト受難」の連作をアッチアイウオーリからヴァザーリが委嘱された際、両者が協力して構想を進めたのかも知れない。いずれにせよ当館が購入したヴァザーリの《ゲッセマネの祈り》はモチーフや構図の上で上記2点の素描に良く似ており、パロッキが指摘するようにアッチアイウオーリの《ゲッセマネの祈り》^{フアージュオン}の異作の可能性は充分にある。キリストの表情や天使の身体つきはルーヴルの素描と共通し、ヨハネの頭部はヴァザーリの描く聖母のそれに通じる。またやや硬質な衣襲の処理もヴァザーリの特徴である。最近、ローマにおけるヴァザーリの制作活動に関する研究論文を著わしたチャールズ・デイヴィスは (Charles Davis, “Per l’attività romana del Vasari nel 1553: Incisioni degli affreschi di Villa Altoviti e la Fontanalia di Villa Giulia”, in: *Mitteilungen des kunsthistorischen Institutes in Florenz*, XXIII Band, 1979, Heft 12, pp. 197-224), ある私信の中で本作品を、ヴァザーリが制作に際して多くの助手たちにその仕上げを委ねた時期以前の、彼の比較的初期の作

としているが、1545—46年頃という制作時期はデイヴィスの推測とほぼ合致するように思われる。

ランクレ

《眠る羊飼女》

1730年頃

ランクレは、同時代人ヴァトーと同じく、雅宴画や田園の中での人物の描写を得意とした。この作品は、ルイ十三世治下の財務長官兼公安長官ジャン・ブーロンニュ Jean Boullongne によって、パリのヴァンドーム広場に面していた彼の館 (オテル・ド・ブーロンニュ) のサロンの装飾として、やはりランクレの手になる他の8点の作品とともに注文されたものである。建物は、1717年頃、当時の財務長官ジョン・ローの館として建てられたものであるが、ジャン・ブーロンニュの財務長官就任の時期から考えて、彼がこの館に移り住み、サロンの装飾をランクレに依頼したのは1730年頃と思われる。

オテル・ド・ブーロンニュのサロンを飾った9点のランクレによる作品は、1896年に売立てに付され、現在は分散しているが、本来の配置は、サロン内を写した古い写真によって知ることができる (Wildenstein, fig. 82 参照)。9点のうち5点 (《踊り子》、《ジル》、《女巡礼》、《日傘を持つ婦人》、《トルコ人》) は、鏡、戸口などの間の壁面にはめ込まれたもので、それぞれ、細長い画面の中央に一人のたたずむ人物を表わし、上下を天蓋、唐草模様等で埋めている。他の4点のうち本作品を除く3点 (《ぶらんこ》、《かごの中の鳥》、《風笛》) は戸口上部を飾って

いたもので、それぞれ、やや縦長の円形の画面の中に、田園風景の中で戯れる一組の男女を描き出している。本作品は、サロンの中央、暖炉および鏡の上を飾っていたもので、戸口上の3点に近い主題を扱っている。

「眠る羊飼女」という主題は、ランクレの他の作品にもしばしば見られるものであるが、人物の姿や服装は、理想化、貴族化されている。

ドーミエ

《マグダラのマリア》

1849/50年頃

また今年度は19世紀のフランス美術界で特異な位置を占めるオノレ・ドーミエの油彩習作を購入した。彼は国王ルイ・フィリップを批判した罪で投獄されたこともある諷刺画家として世に知られ、生涯に制作した4000余点に及ぶ石版画を通じて、痛烈な政治諷刺や風俗漫画に才腕を揮った。しかし彼は40歳を過ぎるころから一方で油絵制作も手がけ、生来の批判精神に徹したヒューマニスティックな佳作を数多く残している。

1848年にドーミエはクールベらに唆されて、美術学校で催された「共和国」という課題の油絵コンクールに応募した。結果は応募500余点中の優秀20作品のうちに入り、第二次審査のため大作を提出するよう求められる。しかし彼は、事前にそのための前渡金をうけとったにもかかわらず、これに応じなかったため、その代償として翌年美術監督局から、ある地方教会のために宗教画を制作するよう依頼されることになった。この絵は上記の経緯を継ぐものとして、18

49年に当時の美術監督官フランソワ・カヴェから公式に依頼された宗教大作のための油絵スケッチとされる。結局その大作は再び制作されずに終わったが、そのための構想を示すものとして本図と、これに関連する木炭素描(K. E. Maison, Vol II, no 743)が残され、本図はカヴェによって購入されたのか、それとも作者から贈られたのかは不明ながら、1928年まで同家の所蔵品として伝世した。一切の装飾的要素を排除した荒削りな描法や、明暗の激しい対比のうちに対象を鋭く浮き上らせる表現は、作者の画風を実によく示しているものといえよう。



Lorenzo Leonbruno da Mantova. The Nativity.
Tokyo, National Museum of Western Art.



Jean-Marc Nattier. Portrait of Madame Marie-Henriette Berthelet de Pleneuf, 1739
Tokyo, National Museum of Western Art.



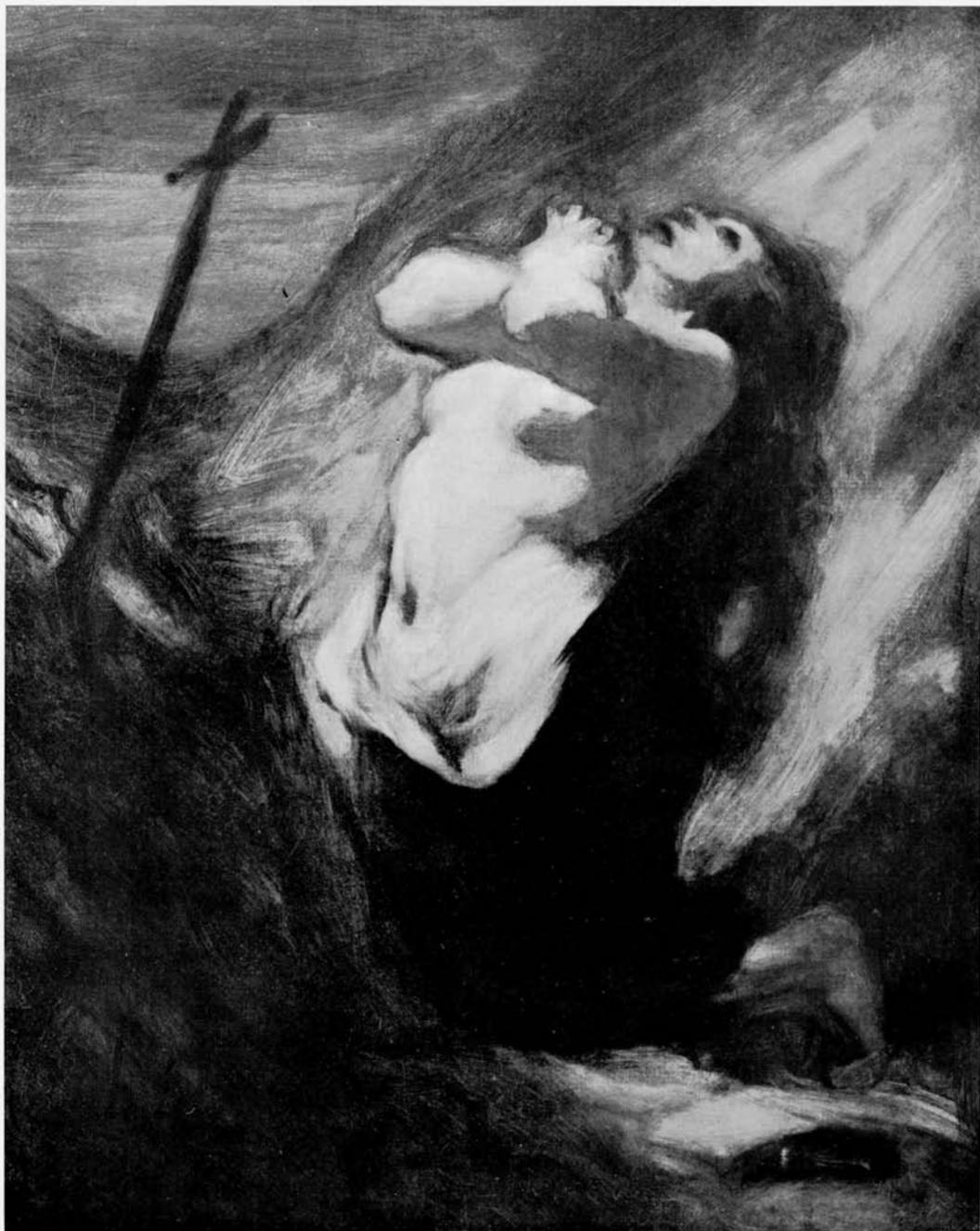
Jean Dubuffet. Cow with a beautiful tail, 1954
Tokyo, National Museum of Western Art.



Giorgio Vasari. The garden of Gethsemane, c. 1545/46
Tokyo, National Museum of Western Art.



Nicolas Lancret. *Sleeping shepherdess*, c. 1730
Tokyo, National Museum of Western Art



Honoré Daumier. Mary Magdalene, c. 1849/50
Tokyo, National Museum of Western Art

新収作品目録

この目録は、「国立西洋美術館年報 No. 13」に記載分以後、昭和54年4月から昭和55年3月までに当館予算で購入した作品および寄贈作品を含む。作品番号のPは絵画、Dは素描、Gは版画を示す。寸法の表示は縦×横の順である。

購入作品 9点

レオンブルーノ・ダ・マントヴァ、ロレンツォ
マントヴァ 1489年—? 1537年?

LEONBRUNO DA MANTOVA, Lorenzo

Mantova 1489—? 1537?

P・1979-1

キリスト降誕

16世紀前半

板 44.4×36.3 cm

右上の馬小屋の梁に署名：*LIONBRUN MANT*

来歴：G.J. チャムリー；グリットルトン（ウィルトシャー）、ニールド・コレクション；ロンドン，クリスティーズ売立て，1944年6月9日，lot no. 6；ノーラ・プリンス＝リトラー；ロンドン，トーマス・アグニュー・アンド・サン

文献：G. Waagen, *Treasures of art in Great Britain*, 1854, vol. II, p. 241; *Old master paintings* (Catalogue of Thos. Agnew and Son Ltd.), 1978, p. 28, no. 36, col. repr.

昭和54年度購入

ナティエ，ジャン＝マルク
パリ 1685年—パリ 1766年

NATTIER, Jean-Marc

Paris 1685—Paris 1766

P・1979-2

マリー＝アンリエット＝ベルトレ・ド・ブルヌフ夫人
の肖像

1739年

油彩 カンヴァス 101.8×82.8 cm

左下の壺に署名年記：*Nattier. p. / 1739*

来歴：パリ，マリー＝アンリエット＝ベルトレ・ド・ブルヌフ；ヴィトリー城（ヴィトリー・ラ・ヴィル），リオクール侯爵；ニューヨーク，アビー・オールドリッチ；ニューヨーク，ジョン・D・ロックフェラー・ジュニア；ニューヨーク，ジョン・D・ロックフェラー三世；ニューヨーク，ニューハウス

昭和54年度購入

NEW ACQUISITIONS

This supplement follows our Annual Bulletin No. 13 of 1979. It contains all the works bought and presented from the beginning of April, 1979 to the end of March, 1980.

The number before each work indicates our inventory number. P is for painting, D for drawing and G for print. Dimensions are given in centimeters (height followed by width).

PURCHASES

P • 1979-1

THE NATIVITY

First half of the 16th century

Panel 44.4 × 36.3 cm

SIGNED: *LIONBRUN MANT*

PROVENANCE: G. J. Cholomondely; Neeld Collection, Grittleton, Wiltshire; Auc. Christie's, London, 9. 6. 1944, lot no. 6; Nora Prince-Littler; Thos. Agnew and Son Ltd., London.

BIBLIOGRAPHY: See Japanese text.

Purchased, 1979.



P • 1979-2

PORTRAIT OF MADAME MARIE- HENRIETTE BERTHELET DE PLENEUF

1739

Oil on canvas 101.8 × 82.8 cm

Signed and dated: *Nattier. p. | 1739*

PROVENANCE: Marie-Henriette-Berthelet de Pleneuf, Paris; Marquis Riocourt, Chateau de Vitry, Vitry la Ville; Abby Aldrich, New York; John D. Rockefeller, Jr., New York; John D. Rockefeller, III, New York; Newhouse, New York.

Purchased, 1979.



ヴァザーリ, ジョルジオ
アレツォ 1511年—フィレンツェ 1574年
VASARI, Giorgio
Arezzo 1511—Firenze 1574

P・1979-4
ゲッセマネの祈り
1545/46年頃
油彩 板 142.2×125.7 cm
来歴：オランダ王ルイ・ボナバルト；ロンドン，アーケイド画廊，1954年；ノーフォーク（ヴァージニア），ウォルター・P・クライスラー・ジュニア；米国，個人蔵；ニューヨーク，ニューハウス

展覧会歴：『バックキアッカとその友人たち』，ホルティモア美術館，1961年，cat. p. 64, no. 75, repr.

文献：People into pictures, Arcade Gallery, London, 1954, no. 2; P. Barocchi, *Vasari—Pittore*, Milano, 1964, pp. 130-131; P. Barocchi, “Complimenti al Vasari Pittore”, *Atti e Memorie*, vol. XXVIII, 1963-64, p. 259, note 4.

昭和54年度購入

ランクレ, ニコラ
パリ 1690年—パリ 1743年
LANCRET, Nicolas
Paris 1690—Paris 1743

P・1979-5
眠る羊飼女
1730年頃
油彩 カンヴァス（楕円形） 72.4×78.7 cm
来歴：ブーロン美術館，パリ，ジャン・ブーロンニユによって注文される：パリ，売立て，1896年5月27日，lot no. 9；バンベルガー・コレクション；オテル・ドルオー，パリ，バンベルガー・コレクション売立て，1923年3月17日，lot no. 59；パリ，ウィルデンスタイン画廊

展覧会歴：『二十人の画家』，ヒューストン美術館，1951年，cat. no. 6, repr.；『もし買えるならば』，ホルティモア美術館，1955-56年；『ロココ—18世紀フランス絵画の詩と夢』，西宮市大谷記念美術館，1978年，cat. no. 5, col. repr.

文献：S. Ballot de Sovot, *Eloge de Lancret*, Paris, n. d., pp. 34, 45-47; E. Bocher, *Les Gravures françaises du XVIII^e siècle ou catalogue raisonné des estampes . . . de 1700-1800*, vol. IV, *Nicholas Lancret*, Paris, 1877,

P • 1979-4

THE GARDEN OF GETHSEMANE

c. 1545/46

Oil on panel 142.2 × 125.7 cm

PROVENANCE: Louis Bonaparte, King of Holland; Arcade Gallery, London, 1954; Walter P. Chrysler, Jr., Norfolk, Virginia; An American collector; Newhouse, New York.

EXHIBITION: *Bacchiacca and his friends*, Baltimore Museum of Art, Baltimore, Maryland, 1961, cat. p. 64, no. 75, repr.

BIBLIOGRAPHY: See Japanese text.

Purchased, 1979.



P • 1979-5

SLEEPING SHEPHERDESS

c. 1730

Oil on canvas (oval) 72.4 × 78.7 cm

PROVENANCE: Hôtel de Boullongne, Place Vendôme, Paris, commissioned by Jean Boullongne; Auc., Paris, 27. 5. 1896, lot no. 9 (catalogue, *Notice sur un très beau salon décoré par Lancret*); Bamberger Collection; Auc. X... (Bamberger), Paris, Hôtel Drouot, 17. 3. 1923, lot no. 59; Wildenstein, Paris.

EXHIBITION: *Twenty masters of painting*, Museum of Fine Arts, Houston, 1951, cat. no. 6, repr.; *If wishes could buy*, Baltimore Museum of Art, Baltimore, Maryland, 1955-56; *Rococo—Poésie et rêve de la peinture française au XVIII^e siècle*, Musée Otani des Beaux-Arts, Nishinomiya, 1978, cat. no. 5, repr.

BIBLIOGRAPHY: See Japanese text.

Purchased, 1979.



pp. 91, 92; G. Wildenstein, *Lancret*, Paris, 1924, pp. 119–120, no. 737, figs. 182, 191; *Baltimore Museum of Art News*, XIX-1, Oct. 1955, repr. p. 11.

昭和54年度購入

ドーミエ, オノレ

マルセイユ 1808年—ヴァルモンドワ 1879年

DAUMIER, Honoré

Marseille 1808—Valmondois 1879

P・1979-6

マグダラのマリヤ

1849/50年頃

油彩 カンヴァス 41×33 cm

左下に署名: *hD*

来歴: バリ, フランソワ・カーヴェ; バリ, マリー＝エリザベト・カーヴェ (前者の妻), 1852年に前者より相続; バリ, アルベール・ブーランジェニカーヴェ (前者の息子), 前者より相続, 1911年まで; バリ, ガストン・ル・ロワ, 前者より相続; オテル・ドルオー, バリ, ル・ロワ・コレクション売立て, 1926年5月19–20日, lot no. 43; バリ, H. フィケ; ベルリン, アルフレート・ゴルト; ニューヨーク, ヴィオレ・ド・ラスロ; スイス, 個人蔵; バリ, ウィルデンスタイン

展覧会歴: 『19世紀ドイツ, フランス絵画の名作』, デュッセルドルフ美術協会, 1930年; 『コロネ, ドーミエ』, ニューヨーク近代美術館, 1930年, cat. p. 32, no. 59, pl. 59; 『フランス美術—19世紀絵画』, E.J. ウィッセリング画廊, アムステルダム, 1933年, cat. no. 6, pl. 6; 『ドーミエ—絵画, 素描, リトグラフ』, レスター画廊, ロンドン, 1936年, cat. p. 11, no. 89; 『18, 19世紀巨匠の絵画と素描』, デュラン＝リュエル画廊, バリ, 1938年

文献: L. Dimier, “Tableaux qui passent”, *Gazette des Beaux-Arts*, XIV, Dec. 1926, p. 364, repr. p. 366; A. Alexandre, “Le mysticisme de Daumier”, *Le Figaro, supplément artistique hebdomadaire*, V, no. 193, 7. 6. 1928, p. 542, repr.; *The Art News*, XXVI, no. 26, 31. 3. 1928, repr., p. 1; J. Maynard, “Cent ans de peinture française et allemande—une exposition franco-allemande à Dusseldorf”, *L'Art vivant*, VI, no. 124, 1930, p. 162; K. Cohen, “Meisterwerke deutscher und französischer Malerei im Kunstverein zu Düsseldorf”, *Kunst und Künstler*, XXVIII, Apr. 1930, p. 294, repr.; G. Pène du Bois, “Corot and Daumier”, *The Arts*,

P • 1979-6

MARY MAGDALENE

c. 1849/50

Oil on canvas 41 × 33 cm

Signed: *hD*

PROVENANCE: François Cavé, Paris; Bequeathed to his wife, Marie-Elizabeth Cavé, Paris, 1852; By inheritance to her son Albert Boulanger-Cavé, Paris, until 1911; By inheritance to Gaston Le Roy, Paris; Auc. Gaston Le Roy, Paris, Hôtel Drouot, 19-20. 5. 1926, lot no. 43; H. Fiquet, Paris; Alfred Gold, Berlin; Violet de Laszlo, New York; Private collection, Switzerland; Wildenstein, Paris.

EXHIBITION: *Meisterwerke deutscher und französischer Malerei des 19. Jahrhunderts*, Kunstverein, Düsseldorf, 1930; *Corot—Daumier*, Museum of Modern Art, New York, 1930, cat. p. 32, no. 59, pl. 59; *L'Art français—Peinture du XIXe siècle*, E.J. Wisselingh & Co., Amsterdam, 1933, cat. no. 6, pl. 6; *Daumier—Paintings, drawings, lithographs*, Leicester Galleries, London, 1936, cat. p. 11, no. 89; *Tableaux et dessins—Quelques maîtres du 18e et du 19e siècle*, Durand-Ruel, Paris, 1938.

BIBLIOGRAPHY: See Japanese text.

Purchased, 1979.



XVII, no. 2, Nov. 1930, repr., p. 87; E. Fuchs, *Der Maler Daumier* (Nachtrag), München, 1930 (2nd ed.), p. 63, no. 297, pl. 297; *Daumier—peintures, aquarelles, dessins* (Exhibition cat.), Musée de l'Orangerie, Paris, 1934, pp. 21–22 (Introduction by C. Roger-Marx); J. Lassaigne, "A travers les galeries", *L'Amour de l'Art*, XIX, no. 6, July 1938, p. 259, col. repr.; C. Roger-Marx, *Daumier*, Paris, 1938, pp. 52–53; J. Adhémar, *Daumier—dessins et aquarelles*, Paris, n. d., p. 5; C. Roger-Marx, "Universalité de Daumier", *Arts et Livres de Provence, Bulletin de la Revue*, no. 8, 1948, p. ↗

アングル, ジャン=オーギュスト=ドミニク
モントーヴァン 1780年—パリ 1867年
INGRES, Jean-Auguste-Dominique
Montauban 1780—Paris 1867

D・1979-1
ジェニー・ドラヴァレットの肖像(？)

1817年

石墨 16.1×11.5 cm

左上に署名年記: *jngres. del. / Roma 1817.*

来歴: ノザン夫人(?); ロマン・カーズ(?); マルセル・デュラフォワ夫人, 1903年; マルセル・デュラフォワ; バリ, ベルナル・ロランソー画廊, 1963年; バリ, エクトル・ブラム画廊, 1964年; ロンドン, ファーバー・アンド・メイソン, 1968年; ニューヨーク, ボール・ローゼンバーグ画廊, 1968年; ロスアンジェルス, ノートン・サイモン; バリ, クラウス・ヴァーチ, 1971年; サンタ・バーバラ (カリフォルニア), R.M. ライト

展覧会歴: 『アングル』, ジョルジュ・ブチ画廊, バリ, 1911年, cat. no. 108 (《ノザン夫人》という題で)

文献: H. Lapauze, *Les portraits dessinés de J.A.D. Ingres*, Paris, 1903, no. 96, repr.; H. Lapauze, *Ingres*, Paris, 1911, p. 168, repr.; H. Naef, "Ingres und die Familien Thénin und Taurel", *Nederlands Kunsthistorisch Jaarboek*, XVI, 1965, no. 7, fig. 7; *Art at auction, The year at Sotheby's & Parke-Bernet 1970–71*, London, 1971, p. 79, fig. 13; H. Naef, *Die Bildniszeichnungen von J.A.D. Ingres*, vol. IV, Bern, 1977, p. 376, no. 202, repr.

昭和54年度購入

20; R. Lejeune, *Honoré Daumier*, Lausanne, 1953, p. 228; C. Schweicher, *Daumier*, Paris, 1953, p. VIII, pl. 64; J. Adhémar, *Honoré Daumier*, Paris, 1954, pp. 38, 44–45, 78, 89, 106, 118, no. 51, col. pl. 51; C. Roger-Marx, *Maîtres du XIX^e et du XX^e siècle*, Genève, 1954, p. 66; R. Escholier, *Daumier et son monde*, Nancy, 1965, pp. 169–170; R. Jullian, “Sur la chronologie de quelques peintures de Daumier”, *Bulletin de la Société de l’Histoire de l’Art Français*, 1965, pp. 224–225; O. Larkin, *Daumier—Man of his time*, New York/Toronto/London, 1966, pp. 86–87,

134, 227, 230; K. E. Maison, *Honoré Daumier—Catalogue raisonné of the paintings, watercolors and drawings*, London, 1968, vol. I, pp. 67–68, no. I-29, pl. 5, fig. I-29; L. Barzini/G. Mandel, *L’opera pittorica completa di Daumier*, Milano, 1971, p. 91, no. 38, repr.; T.J. Clark, *The absolute bourgeois—Artists and politics in France 1848–1851*, London, 1973, pp. 108–109, 111–114, fig. 79.

昭和54年度購入

D • 1979-1

PORTRAIT OF JENNY DELAVALLETTE (?)

1817

Graphite 16.1 × 11.5 cm

Signed and dated: *Ingres. del. | Roma 1817.*

PROVENANCE: Mme de Nozan (?); Romain Caze (?); Mme Marcel Dieulafoy, 1903; Marcel Dieulafoy; Galerie Bernard Lorenceau, Paris, 1963; Galerie Hector Brame, Paris, 1964; Faerber & Maison, London, 1968; Galerie Paul Rosenberg, New York, 1968; Norton Simon, Los Angeles; Claus Virch, Paris, 1971; R.M. Light & Co., Santa Barbara, California.

EXHIBITION: *Ingres*, Galerie Georges Petit, Paris, 1911, cat. no. 108 (as “Mme de Nozan”).

BIBLIOGRAPHY: See Japanese text.

Purchased, 1979.



レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン
レイデン 1606年—アムステルダム 1669年
REMBRANDT HARMENSZ. VAN RIJN
Leiden 1606—Amsterdam 1669

G・1979-4
エジプトへの避難
1653年頃
エッチング、エンブレイヴィング、ドライポイント（ヘルクレス・セーヘルスの原版を改作，第6ステート）
20.9×28.1 cm
(Bartsch 56)

デューラー，アルブレヒト
ニュルンベルク 1471年—ニュルンベルク 1528年
DÜRER, Albrecht
Nürnberg 1471—Nürnberg 1528

G・1979-6
ネメシス（運命）
1502年
エンブレイヴィング（第2ステート） 33.1×22.9 cm
右下にモノグラム：AD
(Bartsch 77; Meder 72/2; Hollstein 72b)

来歴：サンタ・バーバラ（カリフォルニア），R.M. ライト

昭和54年度購入

ホイッスラー，ジェームズ・アボット・マクニール
ローウェル（マサチューセッツ） 1834年—ロンドン
1903年
WHISTLER, James Abbot McNeil
Lowell (Massachusetts) 1834—London 1903

G・1979-7
庭
1880年
エッチング（第8ステート） 30.2×23.4 cm
枠の下に鉛筆で署名：蝶の形のモノグラムと *imp.*
(Wedrome 180, Kennedy 210/VIII)

来歴：サンタ・バーバラ（カリフォルニア），R.M. ライト

昭和54年度購入

G • 1979-4

THE FLIGHT INTO EGYPT

c. 1653

Etching, engraving, drypoint (adapting the plate by
Hercules Seghers, 6th state) 20.9 × 28.1 cm
(Bartsch 56)

Purchased, 1979.



G • 1979-6

NEMESIS (THE GREAT FORTUNE)

1502

Engraving (2nd state) 33.1 × 22.9 cm

Monogram: *AD*

(Bartsch 77; Meder 72/2; Hollstein 72b)

PROVENANCE: R.M. Light & Co., Santa Barbara,
California.

Purchased, 1979.



G • 1979-7

GARDEN

1880

Etching (8th state) 30.2 × 23.4 cm

Signed in pencil: butterfly monogram and *imp.*

(Wedrome 180, Kennedy 210/VIII)

PROVENANCE: R.M. Light & Co., Santa Barbara,
California.

Purchased, 1979.



寄贈作品 5点

デュビュッフエ, ジャン
パリ 1901年—
DUBUFFET, Jean
Paris 1901—

P・1979-3

美しい尾の牝牛

1954年

油彩 カンヴァス 97×130 cm

右上に署名: *J. Dubuffet / 54*

来歴: ニューヨーク, クーツ画廊; 東京, 平野逸朗

文献: *Catalogue des travaux de Jean Dubuffet*, vol. X, *Vaches-Petites statues de la vie précaire* (ed. by M. Fascicule), p. 85, no. 112, repr.

昭和54年度 平野逸朗氏より寄贈

アルメイダ, エレナ
リスボン 1934年—
ALMEIDA, Helena
Lisboa 1934—

G・1979-1, 2, 3

人のいる絵

1979年

セリグラフ 各71×100 cm

展覧会歴: 『第11回東京国際版画ビエンナーレ』, 東京国立近代美術館, 1979年, cat. no. 43

昭和54年度 作者 (1, 2) および国立西洋美術館協働会 (3) より寄贈

GIFTS

P • 1979-3

COW WITH A BEAUTIFUL TAIL

1954

Oil on canvas 97 × 130 cm

Signed and dated: *J. Dubuffet* / 54

PROVENANCE: Kootz Gallery, New York; Itsuro Hirano, Tokyo.

BIBLIOGRAPHY: See Japanese text.

Presented by Mr. Itsuro Hirano, 1979.



G • 1979-1, 2, 3

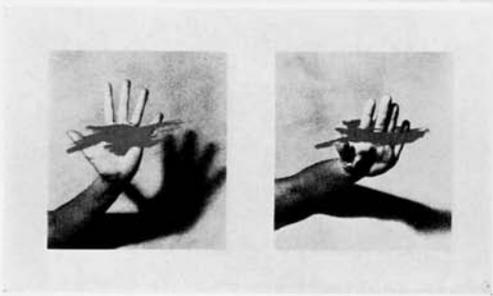
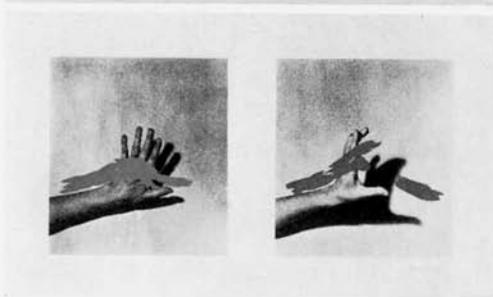
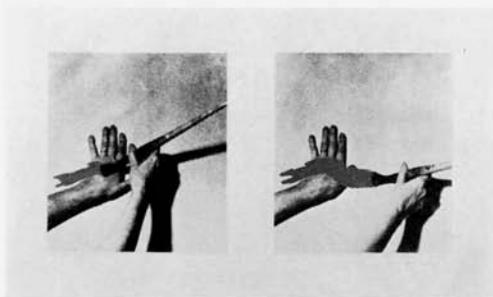
INHABITED PAINTING

1979

Serigraph 71 × 100 cm each

EXHIBITION: *The 11th international biennial exhibition of prints in Tokyo*, The National Museum of Modern Art, Tokyo, 1979, cat. no. 43.

Presented by the artist (1, 2) and the Kyoryoku-kai-society of the National Museum of Western Art (3), 1979.



ルカス・ファン・レイデン
レイデン 1494年—レイデン 1533年
LUCAS VAN LEIDEN
Leiden 1494—Leiden 1533

G・1979-5
洗礼者ヨハネの首をヘロデアの前に運ぶ召使
1517/18年
木版画（第1ステート） 24.4×17.2 cm
(Bartsch 13; Hollstein 22)
昭和54年度 国立西洋美術館協力会より寄贈

G • 1979-5

A SERVANT TAKING THE HEAD OF ST.
JOHN THE BAPTIST TO HERODIAS

1517/18

Woodcut (1st state) 24.4×17.2 cm

(Bartsch 13; Hollstein 22)

Presented by the Kyoryoku-kai-society of the National
Museum of Western Art, 1979.



長谷川三郎

Meisterschule für Konservierung und Technologie an der Hochschule
„Akademie der bildenden Künste“ in Wien

—ein Beispiel der Ausbildung von Restauratoren in Europa—

Saburoh HASEGAWA

ウィーン美術大学の歴史は、1692年、神聖ローマ皇帝レオポルト一世治下に創設された「絵画・彫刻・築城・遠近法および建築芸術のアカデミア」¹⁾に始まる。「近代的な意味での最初の真の美術アカデミー」は1577年に創設されたローマのアカデミア・ディ・サン・ルカであるとされ²⁾、イタリアにおいてはそれ以前にもベルージアのアカデミア・ディ・ベルレ・アルティ（1546年）やフィレンツェのアカデミア・ディ・ディゼーニョ（1563年）などの例がある。しかしアルプス以北の諸都市における美術アカデミーの歴史は、殆ど18世紀に始まり、ウィーンのアカデミー（以後便宜的にウィーン・アカデミーと記す）は中部ヨーロッパにおいては最も古い歴史を有している。

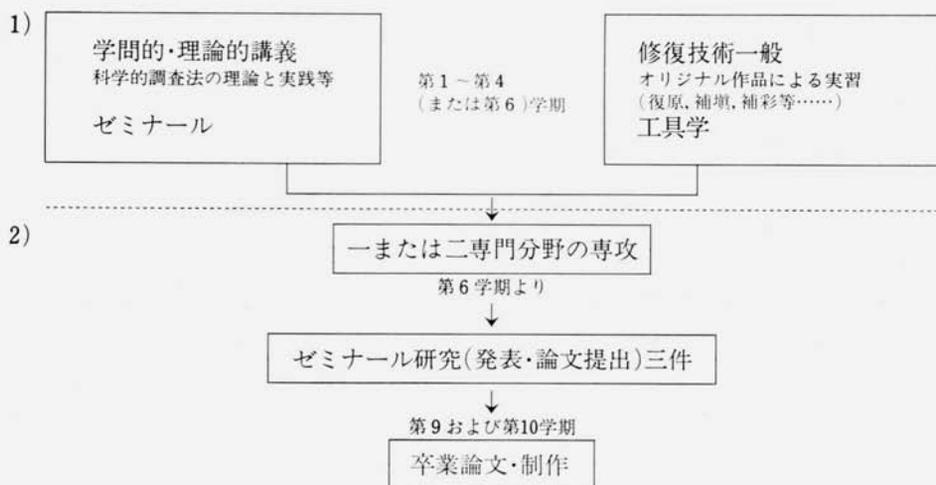
ウィーン・アカデミーに保存修復関係の講座を設置しようとする気運は、既に今世紀初頭に芽生えていた。1902年、教育省が修復家のための講座を設置することを提案し³⁾、1908年、画家エドゥアルト・ゲリッシュ⁴⁾を主任として画家志望学生のための補助科目の一つとして修復講座が設けられた⁵⁾。この講座は1915年ゲリッシュが歿するまで続いたが、その後一時中断し、1917年、画家ゼラフィン・マウラー⁶⁾によって再開された⁷⁾。その後、マウラーの尽力で不断の整備拡充が続けられた結果、1925年、修復講

座は学則に正式登録された。マウラーは自費でレントゲン実験室を設置し、1933年に退職するまでこの講座の指導を続けた⁸⁾。1933年、マウラーの後任となったロベルト・アイゲンベルガー博士⁹⁾は、翌年には保存修復技術の助教授の地位を確立し、単なる絵画修復の一講座に過ぎなかった科目を一つの学科として独立させた。アイゲンベルガーの目指していた新しい保存修復学科は、絵画彫刻技法史、板絵・麻布画・フレスコ画等の材料学ならびに麻布の張り方に至るまでの実践的な技術とか、湿気が地塗りに及ぼす影響等々、保存と修復に関する多様な内容を包括しようとするものであった。そして1935年、この学科はアイゲンベルガーの希望によって学則を改正して「保存および技術学専門学科」¹⁰⁾と呼ばれるようになった。同じ年にアイゲンベルガーは正教授に任命され、この新学科はウィーン・アカデミー内に他の実技学科と並ぶ確固とした位置を獲得したのであった。さらに1937年、彼は門下生への学位授与を提案し、国有美術品のすべての修復は彼等のために手をつけないで残しておくべきであると提言している¹¹⁾。アイゲンベルガーは、ウィーン・アカデミーにおける修復家養成コースの真の創設者であったばかりではなく、オーストリアにおける文化財保護に多大の貢献を果した人物であった

と言えよう。彼の創設した「保存および技術学専門学科」は、ナチス時代のアカデミー改組(1939年)¹²⁾と第二次大戦後の再建の時期との二度にわたって若干名称が変更されて今日に至っている¹³⁾。アイゲンベルガーは1965年の停年まで主任教授を務め、現在の主任教授であるヘルムート・コルトンが後任となった。同じ1965年、版画素描及び紙類の修復講座が同学科内に設けられ、保存技術学科は修復家養成学科としてほぼ理想的な内容に整備された。

さて現在の保存技術学科では、主任教授ヘルムート・コルトン博士のもとに、アカデミー修復家の称号を持つ四名の専任教官の他、内外15名の教授や修復家がそれぞれ専門の保存修復技

術を初めとする専攻科目や文化財保護に関連する補助科目の教鞭を取っている¹⁴⁾。若い修復家の養成を目的とするこの保存技術学科では、修復と保存のあらゆる領域に関する知識と技術が可能な限り広範囲にわたって教授されている。しかし、さまざまな芸術形式の領域や多種多様な材料・技法に関して細大洩らさず教授し、また修復家となるべき学生達がそれらすべてを習得することは、理想的ではあっても不可能であろう。従って今日の修復家養成においては、修復家を目指す学生達に一つあるいは二つに限定した専門分野を専攻させなければならない。そのような観点から、ウィーン・アカデミーの保存技術学科は次のように大きく二分された教育課程に従って教育が実施されている。



言うまでもなく当学科に入学するためにはかかるべき資質と資格を具え、入学選抜試験において好成績をおさめなければならない。まず入学試験受験許可を得るには、大学入学資格を取得しているか、さもなければ何らかの職人組合（例えば金箔師、指物師、金工師、刷り師など）の試験に合格していなければならない。また、芸術的に熟達した能力を有することを証明するために、本人の手になる作品集（素描集、絵画集、彫刻や大作の場合には写真集、既に従事した修復作業の記録など）を提出しなければならない。これらの資料に基き大学教授会が受験希望者の資格審査を行い、この審査をパスした者だけが入学試験を受けることができる。入学試験は何日間にもわたって実施され、芸術的かつ知的な資質あるいは職人的な才能などを試す問題が出題される。

前頁に掲げたカリキュラム概略表における1)のセクション、つまり第1～第4（あるいは第6）学期¹⁵⁾の講義と実習はすべての学生に義務づけられている。この修復家養成教育の第一課程は、学問的理論的講義と実践的な修復基礎実習との二つに大別される。この期間に、学生達は修復と文化財保護に関する基本的な原理と技術を習得させられる。以下に各講義と実習についてその内容を概説しておく¹⁶⁾。

A) 学問的・理論的講義およびゼミナール

〈解剖学と解剖図作成〉

人体の骨格や筋肉に関する解剖学講義；人体標本による精確な解剖図作成の実習

〈遠近法〉

簡単な三角法の問題の把握と空間遠近法

〈色彩学〉（2年間）

色彩学の物理学的基礎、視覚の生理学、美学的な見地による色彩学

〈色素化学および絵画材料学〉

色素化学の基礎；顔料、染料および絵画材料（白亜、ワニス、油、溶剤など）の製法と性質

〈色素化学演習および美術の諸技法〉（2年間）

色素化学演習（絵具サンプルの研磨）；溶剤、合成物質、接着剤、建材、岩石、金属について；美術の諸技法（壁画、テンペラ、水彩、油彩、パステル、絵画基底材など）の概説

〈修復家のための化学復習〉

有機および無機化学の基礎概説

〈保存の自然科学的原理〉

修復のための自然科学的な補助技術、例えば顕微鏡による調査、科学写真、レントゲン、分析などの技術解説

〈修復家のための美術史〉（6学期間）

古代から近代に至る美術史概説

〈美術史演習〉

図像学的、様式のおよび美的な面にわたる詳細な討論

〈文化財保護における実際的な修復上の諸問題〉

修復の実例に基き、修復作業の最も重要な技術上の総合的な問題が解説され討議される

〈修復家のための書法〉

古代から現代に至る重要な書体の解説と実習

〈法律学〉

修復家のための法律の基礎概説

〈文化財の調査と保護〉

修復に関する諸協定の解説（ヴェネツィア憲章と文化財保護）（戦時下における文化財の保

護のためのハーグ条約)；環境破滅(地震、洪水、火事など)に際しての文化財保護、盗難防止

〈ゼミナール〉

客員講師による講演のほか、学生によるゼミナール研究が発表され討論される

——以上すべての講義の受講と受験は学生に義務づけられている——

B) 修復技術一般とオリジナル作品による実習、復原、補完、模写

これらの授業は毎日午前9時から午後1時まで行われ、出席はすべての学生の義務であり、最初の二年間で履修しなければならない。また学生は第6学期以後も更に同様の内容を継続発展研究することも可能である。

第1—2学期

〈木彫の金箔箔地・彩色¹⁷⁾および彫刻の修復〉

金箔技法を中心に関連諸技法について解説；同実習において試作制作、その後オリジナル作品を教材として彫刻修復の実習

〈工具学および木工学〉

木作業のための種々の重要な工具(金槌、鋸、鉋、鑿など)とそれらの手入れおよび取扱ひ方(切る、挽く、削るなど)；簡単な刻み模様から始めて木彫像の補完や模刻にわたる木彫実習；木工学(木材の種類、加工、用途)

〈復原、補完、模写〉

この実習は次のような過程に従って実施される：単純な対象物、石膏モデル、彫刻の正確な素描；色彩実習(色環、色の三属性に基づく小色面の塗り分け)；写真と複製印刷を用いた補彩実習；模写二点制作(素描と混合技法)

第3—4学期

〈絵画作品の修復〉

絵画修復の基本的な問題と技法に関する解説とオリジナル作品を用いた実習(ホット・テーブル、アイロン、または真空袋と放熱管を使用する裏打ち法——即ちワックス接着剤または合成樹脂接着剤による裏打ち——、プレス裏打ち法——糊による裏打ち——、絵具と地塗りおよび麻布の再生修復、絵具層および地塗り層の剝離部分の固定、画面の洗浄と補彩、帯状裏打ち、亀裂部の裏貼り補強など)

以上最初の二年間の修業課程を修了した後、学生は卒業論文・制作の研究テーマとなる専門分野を専攻することができる。

〈版画素描および紙類の修復〉

講義では版画素描の種々の技法(版画技法、水彩、パステルなど)とともに各種の基底材(パピルス、紙、羊皮紙、織物、象牙)、また修復処置について解説される；特に紙類に生ずる特殊な損傷——紙類は極めて敏感かつ脆弱である(光、湿気、虫、酸、インク、火などによる劣化、破損)——について説明が行われる

実習ではオリジナル作品を教材としてさまざまな修復技術が実践的に教授される(乾式洗浄、湿式洗浄、再生、酸の中和、製紙法による欠損部の補填、裏打ち、燻蒸、殺菌、補彩など)

〈金属工芸品および出土品の保存〉

さまざまな金属加工技術、金属製品の修復技術(錆の除去、酸の中和、腐食によって劣化した部分の固定など)、ならびに出土品(陶器、金属、ガラス、石、皮、木などの製品)の保存に関する解説と実習

〈考古文化財の保護と発掘技術〉

発掘地において修復家に関与すべき範囲内について講義される（土中における出土品の記録調査、発掘現場での出土品の破損予防安全処置など）

〈陶磁器、石製品、ガラス等の修復〉

陶器の材料技法に関する歴史的概説；実習では小さな陶製品の試作、学生所有の雑器の修復から始められる

〈楽器の保存〉

オリジナル作品の修復ならびに古楽器の模造制作；楽器の構造と原理の理解

〈自然観察と裸体デッサン〉

この授業はすべての年度の学生の必修科目で、美術の不断の修業と熟達のために設けられている講義である

第5学期から第9学期にかけての間に、各々の学生は保存と修復の特殊な問題を扱ったゼミナール研究を三件発表しなければならない。しかしまた材料・技法についても論究しなければならない¹⁸⁾。

第9および第10学期に学生は卒業論文・制作に取り組む。この論文・制作は、学問的理論的な問題を扱った論文とオリジナル作品の修復実践とによって成立する。論文では、例えば実際の修復上の問題とか極めて困難な技術、あるいは自然科学的な作品調査などを扱うことができる¹⁹⁾。修復実践では、少なくとも二点の作品を手がけ、その修復記録を提出しなければならない。

以上、五年間の修業を終了した学生にはアカデミー修復家の称号が授与される。

註

- 1) Academia von der Malerei-, Bildhauer-, Fortification-, Prospectiv- und Architectur-Kunst. ウィーン・アカデミーの歴史については Walter Wagner, *Die Geschichte der Akademie der bildenden Künste in Wien*, Wien 1967 (以後 Wagner, *Geschichte* と略記する) に詳述されている。創設の経緯については同書 S. 18 以下を参照。
- 2) Accademia di San Luca. Wagner, *Geschichte*, S. 15 参照。
- 3) Wagner, *Geschichte*, S. 264 参照。
- 4) Eduard Gerisch (1853-1915) はメーレン地方ゲヴィッチェ Gewitsch 出身の画家。
- 5) Wagner, *Geschichte*, S. 265 参照。
- 6) Serafin Maurer (1865-1945) はウィーン出身の画家。1921年、助教授。
- 7) Wagner, *Geschichte*, S. 265 参照。
- 8) Wagner, *Geschichte*, S. 305 参照。
- 9) Dr. Robert Eigenberger (1890-1979) はベーメン地方ゼートリッツ Sedlitz 出身の画家、修復家、美術史家。保存技術学科の主任教授を長く務めた他、宗教美術研究室主任 (1961-65)、学長 (1951-53, 1954/55)、学長代行 (1953/54, 1955-57) 等を歴任。
- 10) Fachschule für Konservierung und Technologie.
- 11) 同学科設立の経緯については Wagner, *Geschichte*, S. 305 参照。
- 12) Wagner, *Geschichte*, S. 339 参照。
- 13) 付表 (ANHANG) 3)。
- 14) 付表 (ANHANG) 1)。
- 15) 欧米一般の学期制度と同じく、一年二学期制であり、奇数は冬学期 (10月～1月)、偶数は夏学期 (3月～6月) に相当する。
- 16) 授業の科目と時間および担当教授については付表 (ANHANG) 2) を参照。
- 17) Faßmalerei の訳語として適当な術語を探すことは大変難しい。ここでは説明的に意識しておいた。
- 18) ゼミナール研究については ANHANG 5) を参照されたい。現在までのすべての研究テーマと発表者の一覧である。卒業論文と重複するテーマが多いので訳出しなかった。
- 19) 卒業論文については付表 (ANHANG) 4) を参照されたい。1980年までのすべての論文の一覧である。

あとがき

1977年9月から1979年6月にかけて、筆者は文部省在外研究員としてウィーン美術大学保存技術学科に留学し、美術品の保存修復について研修を行った。その研修報告として、ここに同保存技術学科における修復家養成課程の実際を紹介することにした。欧米における修復家養成教育機関には、国立の文化財研究所ないし修復研究所あるいは美術館に設置されているものと、大学（美術学校）に設けられているものとの二つに大別し得る。ブリュッセルの王立文化財研究所 Institut Royal du Patrimoine Artistique、ローマの中央修復研究所 Istituto Centrale del Restauro、ロンドンのナショナル・ギャラリー（テイト・ギャラリーおよびヴィクトリア・アンド・アルバート美術館と共同）The National Gallery (The Tate Gallery, The Victoria & Albert Museum)、チューリヒのスイス美術研究所 Schweizerisches Institut für Kunstwissenschaft、ニュルンベルク・ゲルマン国立博物館 Germanisches Nationalmuseum Nürnberg、オーバーリン（オハイオ）のインターミュージアム研究所 Intermuseum Laboratory などが前者の代表的な例である。後者の例としては、ウィーン美術大学の他、ワルシャワ美術大学 Akademia der Bildenden Künste in Warschau 保存学部、シュトゥットガルト国立美術大学附属絵画技術学研究所 Institut für Technologie der Malerei an der Staatlichen Akademie der bildenden Künste、ロンドン大学コートールド美術研

究所 Courtauld Institute of Art, University of London、ニューヨーク大学美術研究所保存センター Conservation Center of the Institute of Fine Arts, New York University、ニューヨーク州立大学・ニューヨーク州歴史学会附属歴史美術作品保存研究所（クーパーズタウン）Conservation of Historic and Artistic Works などが知られている。このような各国の修復家養成機関の実際を、この小文においてウィーン美術大学の場合と比較検討することができたならば真に意義深いものとなったであろうが、現在の手許の資料では不可能であった。それは今後の課題としたい。

我国における修復家養成の実態は、我国固有の伝統的な技術についてはさて置き、体系的な保存修復学的見地からすれば残念乍ら甚だ不十分であると言わざるを得ない。また僅かの例を除き、国公立美術館博物館に保存修復部はもとより保存修復専任担当者すら存在しないという実状も、欧米諸国では考えられないことである。この小文が、このような現状に一石を投ずることになれば幸である。

この小報告執筆にあたり、ウィーン美術大学保存技術学科主任教授 Dr. ヘルムート・コルタン氏に資料を提供して頂いた。また筆者の留学中に同学科の助手を務め、現在文部省給費留学生として東京芸術大学保存技術学科で仏像修復技術を研修中のアカデミー修復家 クラウス・ハイスラー氏に御協力して頂いた。文末をかりて両氏にお礼申し上げたい。

付表 1)

保存技術学科教室専任教官

正教授哲学博士ヘルムート・コルタン (主任)
アカデミー修復家・彫刻家ハンス・マイヤル助手
アカデミー修復家ヘルガ・ローゼンベルガー
アカデミー修復家カリン・ヤホダ
アカデミー修復家スザンネ・コルタン

保存技術学科授業担当教官

アカデミー修復家・画家レナーテ・ベルトルマン	復原と補完 (補填, 補彩)
工学士工学博士ハンス・フォラミッティ	文化財の調査と保護
正教授アルフレート・ギーゼル博士	解剖学
アカデミー修復家カリン・ヤホダ	版画素描および紙類の修復
アカデミー修復家フランツ・クレー名誉教授	金属工芸品および出土品の保存
哲学博士アカデミー修復家マンフレート・コラー	文化財保護の実際的な諸問題
アカデミー修復家スザンネ・コルタン	木彫の金銀箔地・彩色および彫刻の修復
アカデミー修復家ペーター・クケルカ	楽器の保存
正教授フランツ・マイリンガー博士	顕微鏡および科学写真
	色彩学, 色素化学
アカデミー修復家・彫刻家ハンス・マイヤル助手	木工学
哲学博士ゲルトルーデ・モスラー	考古文化財の保護および発掘技術
アカデミー修復家ルートヴィヒ・ノイシュティフター	陶磁器, 石製品, ガラスおよび木製品の 修復
エリカ・ライニンガー	科学写真 (ゼミナール)
ヨハン・ライニンガー	科学写真
哲学博士ベルンハルト・リッティンガー助手	美術史
アカデミー修復家ヘルガ・ローゼンベルガー	版画素描および紙類の修復
工学博士カール・スメタナ教授	遠近法概論
アカデミー修復家オットー・ヴェヒター名誉教授	紙類および版画素描の修復

(ウィーン美術大学「1978/79 冬学期履修手引」より)

付表 2)

保存技術学科授業時間表

第1学年度

アカデミー修復家スザンネ・コルタン	
木彫の金銀箔地・彩色および彫刻の修復	週2時間
同実習	週10時間
(基礎概説)	
アカデミー修復家・彫刻家ハンス・マイヤル助手	
工具学および木工学Ⅰ	週4時間
アカデミー修復家・画家レナーテ・ベルトルマン	
復原, 補完および模写	週7時間
正教授アルフレート・ギーゼル博士	
解剖学	週2時間
解剖図作成	週3時間
正教授フランツ・マイリンガー博士	
色彩学(ⅠまたはⅡ)	週1時間
色素化学および絵画材料学	週2時間
色素化学演習および美術の諸技法	週2時間
修復家のための化学復習	週1時間
工学博士カール・スメタナ教授	
遠近法概論	週2時間
哲学博士ベルンハルト・リッティンガー助手	
修復家のための美術史(Ⅰ, ⅡまたはⅢ)	週2時間
同演習	週2時間

第2学年度

正教授哲学博士ヘルムート・コルタン	
(アカデミー修復家スザンネ・コルタン)	
絵画作品の修復	週2時間
同実習	週12時間
(基礎概説)	
ゼミナール	週2時間
アカデミー修復家・彫刻家ハンス・マイヤル助手	
木工学Ⅱ	週4時間

アカデミー修復家・画家レナーテ・ベルトルマン 復原，補完および模写	週7時間
正教授フランツ・マイリンガー博士 色彩学（ⅠまたはⅡ）	週1時間
保存の自然科学的原理	週2時間
哲学博士ベルンハルト・リッティンガー助手 修復家のための美術史（Ⅰ，ⅡまたはⅢ）	週2時間
同演習	週2時間
哲学博士アカデミー修復家マンフレート・コラー 文化財保護における実際的な修復上の諸問題	週3時間
カール・ドラゴ・ブレローク 修復家のための書法	週1時間
第3学年度	
アカデミー修復家・画家レナーテ・ベルトルマン 復原，補完および模写	週7時間
アカデミー修復家オットー・ヴェヒター名誉教授 （アカデミー修復家カリン・ヤホダ，アカデミー修復家ヘルガ・ローゼンベルガー） 版画素描および紙類の修復	週2時間
同実習	週4時間
（基礎概説）	
アカデミー修復家フランツ・クレー名誉教授 金属工芸品および出土品の保存	週1時間
同実習	週4時間
哲学博士ゲルトルーデ・モスラー 考古文化財の保護および発掘技術	週2時間
アカデミー修復家ルートヴィヒ・ノイシュティフター 陶磁器，石製品，ガラス等の修復	週1時間
同実習	週5時間
（基礎概説）	
アカデミー修復家ペーター・クケルカ 楽器の保存	週2時間
同実習	週6時間

(基礎概説)

正教授フランツ・マイリンガー博士

保存の自然科学的原理

週2時間

哲学博士ベルンハルト・リッティンガー助手

修復家のための美術史 (I, II または III)

週2時間

同演習

週2時間

工学士工学博士ハンス・フォラミッティ

文化財の調査と保護

週3時間

正教授哲学博士ヘルムート・コルタン

ゼミナール

週2時間

ヨハン・ライニンガー

科学写真ゼミナール

週4時間

法学博士アルフレート・ザンマー

法律学

週2時間

第4および第5学年度

修復実習 (基礎学修の発展継続)

週20時間

ゼミナール

週2時間

※1時間は45分間である。

(ウィーン美術大学「1978/79 冬学期履修手引」より)

保存技術学科略年譜

1908 修復講座（画家のための補助科目）

エドゥアルト・ゲリッシュ 1908—1915

ゼラフィン・マウラー 1917—1932

ロベルト・アイゲンベルガー 1933—1934

1934 保存および技術学専門学科

ロベルト・アイゲンベルガー 1934—1939

1939 保存および技術学専門家養成学科

主任：

ロベルト・アイゲンベルガー

1939—1945

技術学教授：

アルバート・マニャーギ

1939—1945

1945 保存技術学科

教授：

ロベルト・アイゲンベルガー

1946—1965

助手：

フランツ・ホヴァニーツ

1945—1955

アニー・テレスツク

1949—1952

カール・ニースナー

1952—1977

ミヒェル・ブッフエンビヒラー

1955—1959

フランベルト・ヴァル＝バイエルフェルス

1959—1960

マンフレート・カラー

1962—1965

デトレフ・クライドル

1963—1970

ヘルムート・コルタン

1965—

ミヒェル・ブッフエンビヒラー

1965—1970

ハンス・マイヤル

1970—

（この付表は Wagner, *Geschichte* 記載事項に最近のデータを加えて作成した。学科の名称は原名の若干の変更を分り易く便宜的に意識した。）

附表 4)

卒業論文

- | | | |
|--|------|---------------|
| | 1966 | |
| 1 板絵 | | W. インドラ |
| 2 15—16世紀の木版画 | | G. ヴォルフミュラー |
| 3 研磨滑沢白, 標本試作 | | S. ギンベル |
| 4 金箔技法と刻印打ち | | H. シュタングル |
| 5 金箔地錦欄模様模写の試み | | N. マルフアッティ |
| 6 麻布 | | N. アッテムス |
| 7 麻布画の裏打ち | | A. デムラー |
| 8 天然膠 | | M. レンク |
| 9 絵画用ワニスと溶剤, および絵画洗浄におけるそれらの乾性油に
及ぼす影響に関する覚え書 | | S. キラリー |
| | 1967 | |
| 10 金箔技法の発達 | | A. シュヴェルツェル |
| 11 ルーベンス風絵画技法寄与 | | G. ヴァーグナー |
| 12 展色剤 | | E.M. ヒネック |
| 13 樹脂油ワニス | | U.A. ハッグ |
| 14 数世紀間にわたる絵画の染料と顔料 | | E. ライゼンベルガー |
| 15 セルビアとマケドニアの壁画 | | K. ダクスナー |
| 16 17—18世紀の地, ホルスの地塗り | | F. アーダム |
| 17 筆記用紙類 | | A. ミュレンマイスター |
| 18 合成樹脂接着剤の技術 | | A. ケラー |
| 19 保護膜と絵具層の亀裂 | | M.-Ch. チェルニーン |
| 20 気候(空調) | | N. キルヒナー |
| 21 ゴシックからバロック初頭までの絵画用額縁の発達 | | E. キッツィンガー |
| 22 木彫作品の後補部除去解体における溶剤の利用について | | E. アンブロス |
| 22' 裏打ちにおける接合媒材としての紙 | | E. シュテーベ |
| | 1968 | |
| 23 絵画基底材としての織物 | | Ch. シャル=リオクール |
| 24 絵画修復におけるナトリウム蒸気ランプの単色光線 | | I. ザイドル |
| 25 金箔技法 | | E. ディットリヒ |
| | 1968 | |
| 26 ランバッハ司教座聖堂鐘塔のロマネスクのフレスコの科学技術的
再建とフレスコ技法復原の試み | | W. ゲッツィンガー |
| 27 絵画修復における時代様式解釈の意義について | | H. シンツェル |

- 28 ヨーゼフ・ハイシネク以後の修復技法
1969 H. ディートリヒ
- 29 装飾金銀粒の歴史と技術
30 オーストリアの絵画と木彫金箔地彩色との比較
31 B. スランスキ著“Pruzkom a restaurovani obrazu” (*Technika malby, dil. 2.*) の翻訳
1970 F. クレー
M. ザイラー, E. クラモリン
O. ライナー
- 32 鋳山の情景を表したエマイユの制作
33 波紋鈿
1970 R. ベルトルマン
H. マイヤル
- 34 フェルトキルヒ=レヴィスの聖マグダレーナ代理司祭聖堂内右側祭壇の修復
35 美術品の蛍光分析
36 ホット・テーブル, 構造と応用の可能性
1971 M. ホイスレ
E. ムシル
A. ヒュッケル
- 37 絵画と彫刻の絵具層の固定
38 絵画洗浄とワニス除去のための溶剤
39 修正加筆の鑑識のための方法と判定基準
40 油彩画修復における補彩
1972 Th. ガイスパウアー
F. ヘーリング
M. ラーナッヒャー
H. シュトゥルム
- 41 絵画修復における補填について
42 樹脂ワニス塗布における溶剤の濃度
43 歴史的な壁画の保存技術学寄与
44 通常ワニスおよび特殊なエルヴァサイト樹脂の諸特性
45 インク, とくに没食子酸鉄インク
46 あるロシア・イコンを例としたイコン絵画の画法と技術
47 裏打ちに関する考察
48 ラスター技法の発展
49 ブロンズに発生する有害な腐食とその防止の可能性
50 ポスター・カラーにおける下層顔料の滲出
51 絵具の人為的な酸化の進行に対する保護
52 F. ブアンドラーの代表作, ファルケンシュタインの十字路緑地の砂岩彫刻
1973 B. アーフス
A. プラスコヴィヒ
H. ヤーリッシュ
M. ジームス
I. ヴァルト
E. ベッチェ
P. ブルクハルト
E. ザイベルル
S. シュトラハヴィッツ
M. クリングラー
H. ガラント
- 53 織物類の洗浄
1974 L. ノイシュティフター
G. ヴィーザー

- 54 補彩の倫理学と美学
 55 湿った漆喰の上に施す壁画の地塗り
 56 麻布画の修復に関する文献
 57 天然有機赤色染料
 58 補彩の手法的技術的問題
 59 移し替えによる壁画の損傷
 60 接着剤 BEVA 371 の発達
- 61 封蠟とその修復
 62 石の保存
 63 木の保存
 64 世紀末前後の陶器の表面装飾
 65 自然および人工の光源による染料と顔料の非褪色性の再検査
 66 板絵の固定と矯正のための力学的方式
 67 研磨滑沢白
 68 極東の紙
- 69 緑青
 70 象牙板ミニアテール画の技術
 71 麻布画修復に関する文献
- 72 絵画の二重地塗りの問題について
 73 バスティアリア、浮彫絵画の技術について
 74 オーストリア＝バイエルン地方の彫刻の玉眼
 75 ビスマス画
 76 地塗り、技法と歴史的概観
- 77 地塗りを施さない亜麻布パティスト画、ある歴史的テンペラ技術
 78 緑色顔料
 79 透写紙
 80 オットー・ヴァーグナーによる三点の建築素描の修復記録
 81 壁画の技法（試作品の制作）
- 82 球面の補完の可能性（地球儀修復の原理）
 83 16—17世紀スペインの彩色木彫の技法
- E. パチェラー
 W. グルーバー
 H. ハウスナー
 G. カルテンブルンナー
 E. マイアー
 F. ラル
 E. ヴォタヴァ
- 1975
- I. カッフル
 G. バーベ
 S. フェフェルレ
 H. グリーサー
 U. クレーバー
 W. ロサツヒャー
 A. ヴァーグナー
 B. ヴァーグナー
- 1976
- H. ホルレ
 C. マチュック
 C. マチュック
- 1977
- C. カール
 W. ダルンホーファー
 J. カンドル
 K. マイアー
 B. ベーリッツ
- 1978
- J. ガブリエル
 J. シュヴァーブ
 Ch. シュタインケルナー
 Ch. シュタインケルナー
 W. パーツ, O. フバチュク,
 R. ゼーバー, H. ヴァイラー
 O. ヴァインホルト
 I. オヨス

- 84 特に極東を考慮したインクと墨の製造処方
- 85 木材パルプ含有紙の成分であるリグニンの分析と処置
- 86 鉄の保存
- 87 紙の溶剤含有の問題
- 1979
- 88 「バステル画」, 歴史, 技法, 保存
- 89 ヨーロッパと中国の手刷り壁紙の歴史と技法
- 90 日本の仏教彫刻
- 91 視機関と視機関絵, 18—19世紀の新たなメディアの起源と発達
および意味
- 92 ヨーゼフ・メーダーの紙類保存の処方
- 93 鋸の歴史的発達
- 1980
- 94 木棺と新石器時代の湖上家屋の断片標本で実証されたポリエチレングリコール法による湿った木材の保存; 現在よく知られている湿った木材の保存法の可能性に関する記述
- 95 マルタ・ムシル, 生涯, 作品および意義
- 96 素描版画類の修復における還元漂白剤としての水素化ホウ素ナトリウム, 顔料とインクに対する反応
- 97 エンス (上部オーストリア) に現存する紀元 3—4 世紀のローマ時代の壁画の保存
- 98 17世紀のリガール (風琴) の修復
- 1980
- 99 a) 紙における溶剤の吸着, ガスクロマトグラフィーによる検出
b) ヨアン・ブロイ作ドイツ掛図の修復
- 100 絵画裏打ち寄与
- E. ヒットマイアー
Dr. F. ヘラー
W. ミュラー
E. トゥーレ
- E. ドラクスラー
A. フィードラー
K. ハイスラー
- N. ヴァルツ
P. ヘルム
A. ホフィンガー
- M. マリウス
U. ビューリンガー
- A. シャイアル
- H. シュヴァーハ
W. シュトロマイヤー
- M.-F. トッバイ
H.-P. マルティ

Meisterschule für Konservierung und Technologie

HSProf. Dr. Helmut Kortan—Leiter

HSAss. ak. Rest. Hans Mayerl

ak. Rest. Helga Rosenberger

ak. Rest. Karin Jahoda

ak. Rest. Susanne Kortan

Lehrbeauftragte für Konservierung und Technologie:

ak. Rest. Renate Bertlmann

Rekonstruktion und Integration

Dipl.-Ing. Dr. techn. Hans Foramitti

Dokumentation und Schutz von Kulturgütern

Univ.-Prof. Dr. Alfred Gisel

Anatomie

ak. Rest. Karin Jahoda

Graphik- und Papierrestaurierung

ak. Rest. Franz Klee

Konservierung von Kunstobjekten

aus Metall und Bodenfunden

Dr. phil. Manfred Koller

Aktuelle Probleme in der Denkmalpflege

ak. Rest. Susanne Kortan

Restaurierung von Faßmalerei und Skulptur

ak. Rest. Peter Kukelka

Konservierung von Musikinstrumenten

HSProf. Dr. Franz Mairinger

Mikroskopie und wissenschaftliche

Photographie, Farbenlehre, Farbenchemie

HSAss. ak. Rest. und Bildh.

Hans Mayerl

Holztechnologie

Dr. phil. Gertrude Mossler

Bodendenkmalpflege und Grabungstechnik

ak. Rest. Ludwig Neustifter

Porzellan, Stein, Glas- und Holzrestaurierung

Erika Reininger

Wissenschaftliche Photographie, Seminar

Johann Reininger

Wissenschaftliche Photographie

HSAss. Dr. Bernhard Rittinger

Kunstgeschichte

ak. Rest. Helga Rosenberger

Graphik- und Papierrestaurierung

Prof. Dr. Karl Smetana

Allgemeine Perspektive

Prof. Otto Wächter

Restaurierung von Papier und Graphik

(*Studienführer 1978/79, Hochschule „Akademie der bildenden Künste“ in Wien*)

Stundenplan für Konservierung und Technologie:

1. Studienjahr

ak. Rest. Susanne Kortan	
Restaurierung von Faßmalerei und Skulptur	2 Wochenstunden
Übungen aus . . .	10 Wochenstunden
(Einführung)	
HSAss. ak. Rest. und ak. Bildhauer Hans Mayerl	
Werkzeugkunde und Holztechnologie I	4 Wochenstunden
ak. Rest. und ak. Maler Renate Bertlmann	
Rekonstruktion, Integration und Kopieren	7 Wochenstunden
o. Univ.-Prof. Dr. Alfred Gisel	
Anatomie	2 Wochenstunden
Anatomisches Zeichnen	3 Wochenstunden
o. HSProf. Dr. Franz Mairinger	
Farbenlehre (I oder II)	1 Wochenstunde
Farbenchemie und Malmaterialkunde	2 Wochenstunden
Farbenchemisches Praktikum und künstlerische Techniken	2 Wochenstunden
Chemierepetitorium für Restauratoren	1 Wochenstunde
Dr. techn. Karl Smetana	
Allgemeine Perspektive	2 Wochenstunden
HSAss. Dr. phil. Bernhard Rittinger	
Kunstgeschichte für Restauratoren (I, II oder III)	2 Wochenstunden
Übungen aus . . .	2 Wochenstunden

2. Studienjahr

o. HSProf. Dr. phil. Helmut Kortan	
(ak. Rest. Susanne Kortan)	
Restaurierung von Gemälden	2 Wochenstunden
Übungen aus . . .	12 Wochenstunden
(Einführung)	
Hauptseminar	2 Wochenstunden
HSAss. ak. Rest. und ak. Bildhauer Hans Mayerl	
Holztechnologie II	4 Wochenstunden
ak. Rest. und ak. Maler Renate Bertlmann	
Rekonstruktion, Integration und Kopieren	7 Wochenstunden
o. HSProf. Dr. Franz Mairinger	
Farbenlehre (I oder II)	1 Wochenstunde
Naturwissenschaftliche Grundlagen der Konservierung	2 Wochenstunden

HSAss. Dr. phil. Bernhard Rittinger	
Kunstgeschichte für Restauratoren (I, II oder III)	2 Wochenstunden
Übungen aus . . .	2 Wochenstunden
Dr. phil. ak. Rest. Manfred Koller	
Aktuelle restauratorische Probleme in der Denkmalpflege	3 Wochenstunden
Karl Drago Prelog	
Schrift für Restauratoren	1 Woche
3. Studienjahr	
ak. Rest. und ak. Maler Renate Bertlmann	
Rekonstruktion, Integration und Kopieren	7 Wochenstunden
ak. Rest. Prof. h. c. Otto Wächter	
(ak. Rest. Karin Jahoda und ak. Rest. Helga Rosenberger)	
Restaurierung von Graphik und Papier	2 Wochenstunden
Übungen aus . . .	4 Wochenstunden
(Einführung)	
ak. Rest. Prof. h. c. Franz Klee	
Konservierung von Kunstobjekten aus Metall und von Bodenfunden	1 Woche
Übungen aus . . .	4 Wochenstunden
Dr. phil. Gertrud Mossler	
Bodendenkmalpflege und Grabungstechnik	2 Wochenstunden
ak. Rest. Ludwig Neustifter	
Restaurierung von Keramik, Porzellan, Stein, Glas usw.	1 Woche
Übungen aus . . .	5 Wochenstunden
(Einführung)	
ak. Rest. Peter Kukelka	
Konservierung von Musikinstrumenten	2 Wochenstunden
Übungen aus . . .	6 Wochenstunden
(Einführung)	
o. HSProf. Dr. Franz Mairinger	
Naturwissenschaftliche Grundlagen der Konservierung	2 Wochenstunden
HSAss. Dr. phil. Bernhard Rittinger	
Kunstgeschichte für Restauratoren (I, II oder III)	2 Wochenstunden
Übungen aus . . .	2 Wochenstunden
Dipl.-Ing. Dr. techn. Hans Foramitti	
Dokumentation und Schutz von Kulturgütern	3 Wochenstunden
o. HSProf. Dr. phil. Helmut Kortan	
Hauptseminar	2 Wochenstunden
Johann Reininger	
Seminar Wissenschaftliche Photographie	4 Wochenstunden

Dr. jur. Alfred Sammer	
Rechtskunde	2 Wochenstunden
4. und 5. Studienjahr	
Übungen aus Restaurierung (Fortsetzung nach den Einführungen)	20 Wochenstunden
Hauptseminar	2 Wochenstunden

(Studienführer 1978/79, Hochschule „Akademie der bildenden Künste“ in Wien)

Chronologische Tabelle

1908 *Restaurierkurs (Hilfsfach für Maler):*

Eduard Gerisch 1908—18. VII. 1915

Serafin Maurer 1917—1932

Robert Eigenberger 1933—1934

1934 *Fachschule für Konservierung und Technologie:*

Robert Eigenberger 1934—1939

1939 *Fachmeisterschulen für Konservierung und Technologie:*

Leiter:

Prof. der Technologie:

Robert Eigenberger 1939—1945 Albert Magnaghi 1939—1945

1945 *Meisterschule für Konservierung und Technologie:*

Professor:

Assistenten:

Franz Howanietz

1945—1955

Robert Eigen-

berger 1946—1965

Anny Teresczuk

1949—13. IX. 1952

Karl Niessner

1952—1977

Michel Pfaffen-

bichler 1955—1959

Frambert Wall-

Beyerfels

1959—1960

Manfred Koller

1962—1965

Detlev Kreidl

1963—1970

Helmut Kortan

1965—

Michel Pfaffen-

bichler 1965—1970

Hans Mayerl

1970—

(Walter Wagner, *Die Geschichte der Akademie der bildenden Künste in Wien*, Wien 1967, S. 383, 385, 390, 393)

Diplomarbeiten

	1966	
1 Holztafeln		Waltraud Jindra
2 Der Holzschnitt im 15. und 16. Jahrhundert		Gertraud Wolfmüller
3 Polierweiß, Proben		Susanne Gimbel
4 Vergoldung und Punzierung		Heinz Stangl
5 Versuche zur Nachahmung von Pressbrokaten		Nino Malfatti
6 Leinwand		Nora Attems
7 Das Doublieren von Leinwandgemälden		Angelika Demmler
8 Die natürlichen Leime		Marlies Lennkh
9 Bemerkungen über Gemäldefirnisse, Lösungsmittel und ihre Wirkung auf trocknende Öle bei der Gemäldereinigung		Suzanne Kiraly (Moss)
	1967	
10 Die Entwicklung der Vergoldetechnik		Annelies Schwärzel
11 Beitrag zur Rubens'schen Maltechnik		Georg Wagner
12 Bindemittel		Eva Maria Hynek
13 Harzölfirnisse		Ursula A. Hagg
14 Farben und Pigmente in der Malerei im Laufe der Jahrhunderte		E. Reisenberger (Derschmidt)
15 Wandmalerei in Serbien und Mazedonien		Kamilla Daxner
16 Die Bolusgrundierung, der Grund des 17. und 18. Jahrhunderts		Friederike Adam
17 Schreibstoff		Anette Müllenmeister
18 Die Technologie von Kunstharzklebern		Agathe Keller
19 Krakelüren		Maria-Ch. Czernin
20 Klima		Norbert Kirchner
21 Die Entwicklung des Bilderrahmens von der Gotik bis zu den Anfängen des Barock		Elisabeth Kitzinger
22 Über die Verwendung von Lösungsmittel bei der Freilegung von Holzbildwerken		Elinor Ambros
22' Papier als Zwischenträger bei Doublierungen		Erhard Stöbe
	1968	
23 Gewebe als Bildträger		Christiane Schall-Riaucour
24 Das monochromatische Licht der Natriumdampfampe bei der Gemälde restaurierung		Ingeborg Seidl
25 Vergoldungen		Elisabeth Dittrich
	1968	
26 Der technologische Aufbau der romanischen Fresken im Läuhaus der Stiftskirche zu Lambach und der Versuch einer Rekonstruktion des Malvorganges		Wolfgang Götzinger
27 Über die Bedeutung zeitstilbedingter Interpretation in der Gemälde restaurierung		Hiltrud Schinzel
28 Restaurierungsmethode nach Josef Hajsinek		Hubert Dietrich
	1969	
29 Zur Geschichte und Technologie der Granulation		Franz Klee
30 Ein Vergleich der Malerei und Faßmalerei in Österreich		Marina Seiller, Edda Kramolin

31	Übersetzung von Bohuslav Slansky, Technika malby, dil. 2. Pruzum a restaurovani obrazu	1970	Olga Rainer
32	Emailarbeiten mit Bergbударstellungen		Renate Bertlmann (Mück)
33	Der Flammhobel	1971	Hans Mayerl
34	Die Restaurierung des rechten Seitenaltares in der Vikariatskirche zur hl. Magdalena in Feldkirch-Levis		Margarete Häusle
35	Fluoreszenzanalyse an Kunstwerken		Erwin Musil
36	Der Heitzisch, Konstruktion und Anwendungsmöglichkeiten	1972	Angela Hückel
37	Festigung von Malschichten an Bildern und Skulpturen		Therese Gaisbauer
38	Lösungsmittel zur Gemäldereinigung und Firnisabnahme		Franz Höring
39	Methoden und Kriterien zur Erkennung von Übermalungen		Maria Ranacher
40	Die Retusche in der Ölgemälderestaurierung	1973	Herbert Sturm
41	Zur Kittung in der Gemälderestaurierung		Barbara Afuhs
42	Lösungsmittelinklusion bei Harzfirnissen		Angelika Blaskovich
43	Ein Beitrag zur Konservierung und Technologie historischer Wandmalereien		Heliane Jarisch
44	Eigenschaften der Firnisse im allgemeinen und der Elvacite-Harze im speziellen		Manfred Siems
45	Tinten, insbesondere Eisengallustinten		Ingrid Wald
46	Die Ikonenmalerei und ihre Technologie am Beispiel einer russischen Ikone		Erzsebet Petsche
47	Gedanken zur Doublierung		Peter Purkhart
48	Die Entwicklung der Lüstertechnik		Eva Seiberl
49	Schädliche Korrosionsprodukte an Bronzen und die Möglichkeiten ihrer Bekämpfung		Stephanie Strachwitz
50	Blutende Farbmittel in der Plakattempera		Michael Klingler
51	Schutz von Farben gegen künstliche Oxidationsvorgänge		Heinrich Galland
52	Die Sandsteinskulpturen der Kreuzweganlage in Falkenstein, ein Hauptwerk Ferdinand Pfandler's	1974	Ludwig Neustifter
53	Die Reinigung von Textilien		Gertrud Wieser
54	Ethik und Ästhetik der Retusche		Elisabeth Batchelor (Bauer-Debois)
55	Einige Malgründe für Wandmalerei auf nassem Putz		Wolfgang Gruber
56	Literatur über Restaurierung von Leinwandgemälden		Hermine Hausner
57	Die natürlichen organischen roten Farbstoffe		Gerda Kaltenbrunner
58	Das methodisch-technische Problem der Retusche		Elisabeth Mayr
59	Übertragungsschäden an Wandmalereien		Franziska Rall
60	Die Entwicklung des Klebers BEVA 371		Edda Wotawa

	1975	
61	Das Wachssiegel und seine Restaurierung	Irmgard Kaffl
62	Steinkonservierung	Günter Pape
63	Holzkonservierung	Susanna Feferle
64	Oberflächendekorierung an Keramiken der Jahrhundertwende	Hermine Grießer
65	Überprüfung der Lichtechtheit von Farbstoffen und Pigmenten durch natürliche und künstliche Lichtquellen	Ursula Kroeber
66	Mechanische Systeme zur Stabilisierung und Begradigung von Holztafeln	Walter Rossacher
67	Polierweiß	Angelika Wagner
68	Das Papier im Fernen Osten	Barbara Wagner
	1976	
69	Grünspan	Helmgard Holle
70	Die Technologie der Miniaturmalerei auf Elfenbein	Cornelia Macsek
71	Literatur über Restaurierung von Leinwandgemälden	Cornelia Macsek
	1977	
72	Zum Problem der Doppelgrundierungen an Gemälden	Chatlotte Karl
73	Pastiglia, zur Technik der erhabenen Malerei	Waltraud Darnhofer
74	Eingesetzte Augen an Skulpturen im österreichisch-bayrischen Raum	Johanna Kandl
75	Wismutmalerei	Katharina Mayr
76	Grundierungen, Technologie und historischer Überblick	Beate Beelitz
	1978	
77	Tüchleinmalerei, eine historische Temperatechnik	Jutta Gabriel
78	Grünpigmente	Julia Schwab
79	Transparentpapier	Christine Steinkellner
80	Dokumentation zur Restaurierung von 3 Architekturzeichnungen von Otto Wagner	Christine Steinkellner
81	Techniken der Wandmalerei (praktische Proben)	Wolfgang Baatz, Otto Hubacek, Rudolfine Seeber, Heinz Weiler
82	Die Ergänzungsmöglichkeiten einer Kugeloberfläche (Grundlage zur Globusrestaurierung)	Olaf Weinhold
83	Technik der polychromierten Holzskulptur im 16. und 17. Jahrhundert in Spanien	Isabel Hoyos (Seefried)
84	Die Rezepte zur Herstellung von Tinten und Tuschen unter besonderer Berücksichtigung des Fernen Ostens	Elisabeth Hittmair
85	Analyse und Behandlung des Lignins als Bestandteil holzschliffhaltiger Papiere	Dr. Friederike Heller
86	Eisenkonservierung	Wolfgang Müller
87	Zum Problem der Lösungsmittelinklusioin im Papier	Edith Toure
	1979	
88	„Pastellmalerei“, Geschichte, Technik, Erhaltung	Eva Draxler
89	Geschichte und Technik der handgedruckten Papiertapete in Europa und China	Andrea Fiedler
90	Japanische buddhistische Skulptur	Klaus Heißler
91	Guckkasten und Guckkastenbild, Entstehung, Entwicklung und Bedeutung eines neuen Mediums im 18. u. 19. Jahrhundert	Nicola Waltz

92	Joseph Meders Rezepte zur Papierkonservierung	Petra Helm
93	Die historische Entwicklung der Sägen (bis Ende Mittelalter)	Andreas Hofinger
	1980	
94	Feuchtholzkonservierung demonstriert an einem Baumsarg sowie an neolithischen Pfahlbauproben nach der Polyäthylenglycol-Methode; Beschreibung von den derzeit bekannten Feuchtholz-Konsevierungsmöglichkeiten	Michael Marius Ursula Pühringer
95	Martha Musil, Leben, Werk und Bedeutung	Ursula Pühringer
96	Das Natriumborohydrid als reduzierendes Bleichmittel in der Graphikrestaurierung, Verhalten gegenüber Pigmenten und Tinten	Angela Scheierl
97	Die Konservierung der in Enns (Oberösterreich) geborgenen römischen Wandmalereien aus der Zeit des 3. und 4. Jahrhunderts	Herbert Schwaha
98	Rekonstruktion eines Regals aus dem 17. Jahrhundert	Wolfgang Strohmayer
	1980	
99	a) Adsorption von Lösungsmitteln an Papier, Untersuchungen mittels Gaschromatographie	
	b) Die Restaurierung einer Deutschland-Wandkarte von Joan Blaeu	Maria-Felicitas Tupay
100	Beiträge zur Gemäldedoublierung	Hans-Peter Marty

Seminararbeiten

	1969	
01	Erhaltung und Wiederherstellung von Bodenfunden	Renate Bertlmann
02	Restaurierung metallischer Bodenfunde	Franz Höring
03	Restaurierung von urnenfelderzeitlichen Bronzegegeräten	Manfred Siems
	1970	
1	Das Maya Blau	Isabel Seefried (Hoyos)
2	Spanische Konservierungs- und Restaurierungstätigkeiten	Isabel Seefried (Hoyos)
3	Studienaufenthalt am Schweizerischen Institut für Kunstwissenschaft in Zürich	Hans Mayerl
4	Florenzbericht	I. Seefried u. Herbert Sturm
5	Ikonographische Betrachtung einer nordgriechischen Sammelikone	Peter Stransky
6	Die Retusche bei Ölgemälden	Herbert Sturm
7	Die Restaurierung der Inneneinrichtung der Kirche von Jois	Margarete Häusle
8	Einbettung von Fassungsproben	Franz Höring
9	Problem der Blaupigmente	Barbara Afuhs
10	Historische Temperatechniken	Maria Ranacher
11	Eine Untersuchung des Buches vom Berge Athos in Bezug auf die Wandmalerei	Erwin Musil
12	Lüstrierung an Holzplastiken	Brigitte Woda
13	Restaurierung von sechs Bildern im Kloster Mehrerau/Bregenz	Heinrich Galland
14	Florenzbericht	M. Ranacher u. Eva Seiberl
15	Materialien zur Festigung von Fresken	Heliane Jarisch
	1971	
16	Restaurierung einer Temperamalerei auf Papier	Margarete Häusle
17	Archäologische Ausgrabungen in Ephesos	Angelika Blaskovich
18	Gemäldedoublierung	Peter Purkhart
19	Aufenthalt am Conservation Center, Institute of Fine Arts, New York University	Stephanie Strachwitz
20	Technische Verarbeitung eines Leinwandbildes am Heiztisch	Barbara Afuhs
21	Die Dauerkaschierung als Konservierungsmethode	Michael Klingler
22	Lüstertechnik	Eva Seiberl
23	Bemalte Oberösterreichische Bauernmöbel	Eva Seiberl
24	Untersuchung auf Nachdunkeln der Ölfarbbretusche	Peter Sturm
25	Restaurierung geschwärzter Weißpigmente	Michael Klingler
26	Der Passepartout	Maria Ranacher
27	Römische Münzen 2. Teil	Stephanie Strachwitz
28	Wachsdoublierung auf dem Heiztisch	Heinrich Galland
29	Die Wandmalerei im 11. u. 12. Jahrhundert	Heliane Jarisch
30	Geschichte und Bestimmung römischer Münzen	Elisabeth Bauer-Debois
31	Reinigung und Konservierung römischer Münzen	Elisabeth Mayer
	1972	
32	Acrylharzfarben/Papier	Gerda Kaltenbrunner
33	Regenerierung verblaßter Eisengallustinten auf Pergament	Ingrid Wald
34	Fliesen, Geschichte	Elisabeth Mayr
35	Fliesen, Technologie	Elisabeth Bauer-Debois
36	Doublieren auf dem Heiztisch	Christine Petsche

37	Konservierung und Restaurierung von Kacheln	Stephanie Strachwitz
38	Enzymatische Trennung caseingeleitmer Kreidepapiere	Wolfgang Gruber
39	Veränderungen durch "Verharzen"	Heinrich Galland
40	Ostasiatische Lackkunst	Barbara Afuhs
42	Konservierung von Steinobjekten	Günter Pape
43	Restaurierung einer Frührenaissance Retabel	S. Feferle, A. Wagner
44	Firnisse	Mafred Siems
45	Porzellan	Manfred Siems
46	Wachskitte an Fehlstellen von Bildern und Skulpturen	Franziska Rall
		1973
47	Brokatimitationen im 15. Jahrhundert	Isabel Hoyos (Seefried)
48	Holzerstörende Großpilze	Edda Wotawa
49	Restaurierung einer spätgotischen weiblichen Heiligen, Nordtirol 1490	Susanne Feferle
50	Über die Verwendung des Sternenhimmels als Hintergrundmalerei in der Gotik	Angelika Wagner
51	Über die Arbeit an der spätgotischen Skulptur „Hl. Anna Selbdritt“	Wolfgang Gruber
52	Bericht über das einjährige Praktikum in der Schweiz (Zürich)	Hermine Hausner
53	Florenzbericht	Hermine Hausner
54	Konservierung und Restaurierung einer mittelalterlichen Keramik	
		1973
55	Bericht über Restaurierungsarbeiten und -methoden am Courtauld Institut und am Victoria & Albert Museum, London	Gerda Kaltenbrunner
56	Restaurierung der Fresken Antonio Beduzzi's im Festsaal des Niederösterreichischen Landhauses in Wien	Walter Rossacher
57	Bleiweiß und Zinober, zwei schwärzende Pigmente	Irmgard Kaffl
58	Restaurierung einer gotischen Madonna	Wilma Griebner
		1974
59	Dokumentation über gefaßte Holzskulpturen	Cornelia Macsek
60	Das Munch Museum in Oslo	Gertrud Wieser
61	Bericht über ein Praktikum in Textilrestaurierung an verschiedenen denkmalpflegerischen Institutionen Polens	Gertrud Wieser
62	Probleme bei der Restaurierung von Wandmalereien (Ferialpraxis, Rom)	Franziska Rall
63	Tibetanische Rollbilder und die Restaurierung	Gertrud Wieser
64	Allgemeines über Schimmelpilze	Edda Wotawa
65	Das pontifikale Gewand des europäischen Raumes, seine Entwicklung, symbolisch-mythische Deutung; die liturgischen Farben in Bezug auf das liturgische Gewand; die Tracht der Heiligen im Bildwerk	Barbara Wagner
66	Restaurierung von Kleinfunden aus der Grabung „Maria-Magdalena-Kapelle“ auf dem Stephansplatz in Wien	Walter Rossacher
67	Restaurierung einer spätgotische Predellagruppe, Beweinung Christi	Asa Sandberg
68	Übersetzungen aus dem Russischen: Siltschenko T.N., Gemäldeuntersuchung mit Röntgenstrahlen und UV-Strahlen	

- Panfilova O.I. u. Siltschenko, Untersuchung der „Kreuzigung“
von Paolo Veronese
- Kostrow I.I., Technologische Untersuchung der Bilder „Kreuzigung“
von Tizian und „Beweinung Christi“ von Veronese
- Panfilova O.I., Neue Methoden zur Wiederherstellung der Firnissschichte
von Gemälden
- 69 Schutzmöglichkeiten an lichtempfindlichen Pigmenten
- 70 Museumsklima—Museumsbeleuchtung
- 71 Hinterglasbilder
- 72 Test mit dem UV-Absorber Uvitex OB (Ciba-Geigy)
- 1975
- 73 Ein Versuch zur visuellen Rekonstruktion der Farbpalette des Theophil
Presbyter, *Schedula diversarum artium*
- 74 Über die Herstellung von Farblacken
- 75 Mennige
- 76 Restaurierung des „Indischen Priesters“ von Arthur Strasser
- 77 Eine tiroler Immaculata-Skulptur (Technolog. Untersuchung,
kunsthist. Einordnung, Restaurierung)
- 78 Bergblau
- 79 Lösungsmittelinklusiven in Papier
- 1976
- 80 Restaurierung von fünf keramischen Objekten (Stempel, Signatur,
Material)
- 81 Grundierungen an Tafelbildern vom Mittelalter bis zur Neuzeit
(Literaturarbeit)
- 82 Wässrige Firnisse
- 1977
- 83 Restaurierung eines japanischen Paravents
- 84 Untersuchungen von doppelten oder mehrschichtigen
Grundierungen an Gemälden von 1670–1740
- 85 Die Farbgebung der Barockaltäre in der Fraziskanerkirche in Wien
- 86 Fresco- und Seccomalerei, Erprobung einiger Rezepturen
- 87 Mittelalterliche Keramik
- 88 Bericht über die Arbeit in der Restaurierwerkstätte der
niederösterreichischen Landesbibliothek
- 89 Der römische Gesichtshelm von Herzogenburg
- 90 Die Herstellung von Globen in der Werkstatt von Blaeu
- 91 Historische und technologische Entwicklung von Globen
- 92 Neue Trägermaterialien bei der Übertragung von Wand-
malereien, praktisch erprobt am Beispiel der Restaurierung und
Übertragung eines romanischen Freskos
- 93 Das Sgraffito in Österreich, Restaurierung der Sgraffitofassade der
Universität Wien
- Elisabeth Petsche
Cornelia Macsek
Helmgard Holle
Ursula Kroeber
Ursula Kroeber
- Barbara Wagner
Johanna Kandl
Helmgard Holle
Susanne Feferle
- Walter Rossacher
Waltraud Darnhofer
Edith Bielohlawek
- Charlotte Karl
- Edith Bielohlawek
Johanna Kandl
- Elisabeth Hittmair
- Charlotte Karl
Edith Toure
Baatz—Draxler, Gabriel—
Hittmair, Heller—Hubacek,
Müller—Schwab, Seeber—
Weinhold, Weiler
Christine Steinkellner
- Elisabeth Hittmair
Wolfgang Müller
Olaf Weinhold
Olaf Weinhold
- Otto Hubacek, Heinz Weiler
- Nicola Waltz

- 94 Sgraffito: Technik und stilistische Entwicklung; das „Gemalte Haus“ in Eggenburg
Klaus Heißler
- 95 Die Konservierung und Restaurierung von Setztartschen aus dem Besitz des Historischen Museums der Stadt Wien
Eva Draxler, Andrea Fiedler
Dr. Friederike Heller
- 1978
- 96 Restaurierung eines Tafelbildes
Andreas Hofinger
- 97 Thangka
Jutta Gabriel
- 98 Die Retusche nach der Methode von Josef Hajsinek
Christine Steinkellner
- 99 Die Problematik der Mikroorganismen in der Graphikrestaurierung
Christine Steinkellner
- 100 Die Doernersche Mischtechnik und ihre Möglichkeiten bei der Anfertigung einer Kopie
Wolfgang Müller
- 101 Vergleich der beiden Holztafeln von Lambert Lombard und einem Nachfolger von Quentin Massys mit Hilfe von photographischen Untersuchungsmethoden
Jutta Gabriel
- 102 Die Restaurierungsarbeiten an einem Pergamentbild
Julia Schwab
- 103 Die Technik der Gefriertrocknung
Julia Schwab
- 104 Die Restaurierung des Clavichordes G 48 aus dem Museum Carolino Augusteum in Salzburg, Entwicklung der Clavichorde
Wolfgang Strohmayer
- 105 Neue Doubliermethoden
Hans-Peter Marty
- 106 Geschichte und Theorie der Denkmalpflege und deren Auswirkungen auf die Restaurierung
Andrea Fiedler
- 1979
- 107 Bergung und Konservierung eines römischen Mosaiks
Michael Marius, Christoph Serentschy
- 108 Restaurierung eines kleinen Hammerklaviers (Biedermeier Nähtischklavier)
Andreas Hofinger
- 109 Restaurierung eines Marmorkopfes aus Ephesus
Klaus Heißler, Klaus Schorz
- 110 Die Restaurierung des Marmorportales von Stift Lambach
Klaus Schorz
- 111 Überprüfung der Genauigkeit der Merck'schen pH-Indikatorstäbchen im Vergleich zu anderen Meßmethoden
Nicola Waltz
- 112 Der mittelalterliche Künstler bei der Arbeit
Andreas Hofinger
- 113 Die Kopie als Hilfsmittel der Denkmalpflege, Kopie eines Clavichordes, E. 18. Jhdt.
Wolfgang Strohmayer
- 114 Restaurierung eines Globus aus dem frühen 18. Jhdt.
Maria-Felicitas Tupay
- 1980
- 115 Restaurierung von drei neolithischen Gefäßen (Grabungsbericht von der Grabung auf dem Schanzboden bei Poysdorf-Falkenstein, Niederösterreich)
Michael Marius
- 116 Rekonstruktion einer Zierplatte eines römischen Brustpanzers (Bronzerelief)
Klaus Schorz
- 117 Alterung von Doubliermaterialien
Hans-Peter Marty
- 118 Bindemittel als Bleichschutz (Versuche in der Chlordioxidanlage mit ligninhaltigen Papieren)
Angela Scheierl
- 119 Restaurierung zweier Landkarten
Angela Scheierl
- 120 Geschichte und Technologie des chinesischen Porzellans (7. bis 19. Jahrhundert)
Maria-Felicitas Tupay

121	Restaurierung des „Stammbaumes der Familie Auersperg“	Ursula Pühringer
122	Probleme der Pergamentrestaurierung:	
	1. Temperamalerei auf Pergament	
	2. Spitzenbildchen auf Pergament	Raja Reichmann
123	Restaurierung einer chinesischen emaillierten Schale	Raja Reichmann
124	Restaurierung aus der Sicht von Funktion und Gebrauchswert, dargestellt am historischen Geigenbau	
125	Die chinesische Keramik von den Anfängen bis zur Ming-Zeit (Irdenware und Steinzeug)	Alfons Huber
126	Die Restaurierung eines römischen Helmes aus der frühen Kaiserzeit	Angela Scheierl
127	Restaurierung eines barocken Planetariums von Ph. Vayringe	Ursula Pühringer
128	Restaurierung römischer Fresken, Magdalensberg, Kärnten	Christoph Serentschy
129	Restaurierung eines awarischen Säbels	Herbert Schwaha
130	Arbeitshygiene und Gesundheitsschutz bei der Restaurierung	Herbert Schwaha
131	Die Restaurierung eines Stiches der Gnadenmadonna von Einsiedeln	Hemma Kundratitz
132	Die Restaurierung eines Gemäldes von R. Bitterlich	Hemma Kundratitz
133	Die Restaurierung eines Leinwandgemäldes unter Berücksichtigung der Weiterverwendung als Geheimtür	Angelika Kathrein
		Andrea Donau, Irene Engelhardt

事業記録 昭和54年度

所蔵作品の修復記録

— 昭和54年4月より昭和55年3月まで —

1 ピエール＝オーギュスト・ルノワール

《アルジェリア風のバリの女たち》 1872年

油彩 カンヴァス 156×128.8 cm

P・1959-182

作品状態：前年度、裏打洗浄および補彩等の修復処置を施した後、応急的に保護膜を塗布し、額縁を改修して海外展に貸与出品した。そのため、未処置の保護膜の再塗装仕上げ、および画面周辺部に生じた額擦れを補彩する必要があった。

修復処置：テレピン精油、ミネラル・スピリットを用い、応急的な保護膜を除去。デトランプを用いて画面周辺に生じた額擦れ部分を補彩。セミマット・タブローニスを用いて保護膜塗布。

2 ボール・ゴガン

《海辺に立つブルターニュの二少女》 1889年

油彩 カンヴァス 92.5×73.6 cm

P・1959-106

作品状態：基底材の麻布地の劣化、絵具層の微細な亀裂、保護膜の若干の黄変および塵埃付着等が観察された。そのため、全面裏打による麻布地および地塗り・絵具層の固定強化、画面の軽い洗浄処置を施すことが必要と認められた。

修復処置：蜜蝋およびダンマール樹脂等の混合接着剤を用いて全面裏打。テレピン精油、ミネラル・スピリット、アンモニア水等を用いて画面洗浄。デトランプを用いて微細な欠損部分を補彩。セミマット・タブローニスによる保護膜塗布。

(以上の修復は黒江光彦氏による。)

特別展記録

* フォッグ美術館所蔵

ヨーロッパ巨匠素描展

1979年11月3日～12月16日

主催：国立西洋美術館

出品内容：水彩・素描 100点

アメリカの名門ハーヴァード大学附属のフォッグ美術館は、全体の規模としてはボストン美術館やメトロポリタン美術館などの大美術館に及ばないが、その素描コレクションは、メトロポリタン美術館やピアポント・モルガン図書館のそれと並んで、アメリカでは最もすぐれた内容を誇るものである。この美術館の特徴は、ハーヴァード大学の美術史教育の一環として運営されていることで、教授陣がキュレーターを兼務し、学生たちがその助手として働いている。歴代の教授たちは、美術の本質を知るためにはすぐれた作品にじかに接することが最も重要であるとの信念から、西洋美術の各時代を網羅する名品の収集に努めてきた。とくに素描は14世紀の稀少な作品から現代に至る、ほぼあらゆる時代の巨匠による第一級の作品が集められており、現在約3500点を所蔵している。

この展覧会は、そのフォッグ美術館から、マンテーニャ、ミケランジェロ、デューラー、レンブラント、ルーベンス、スーラ、ピカソをはじめ、15世紀から現代までの6世紀間にわたる巨匠たちの素描100点を出品展示したもの。いずれも素描芸術の本質を伝える名品で、これだけ質の高い作品を一時に海外に出すのは、フォッグ美術館として初めてのことであった。



*フラゴナール展

1980年3月18日～5月11日

主催：国立西洋美術館・読売新聞社

出品内容：絵画90点、素描73点、版画13点、計176点

(1980年5月24日～6月29日、会場：京都市美術館)

ジャン＝オノレ・フラゴナールは、18世紀のフランス絵画界において、ワトー、シャルダン、ブーシェと並び称された大画家である。彼は、ロココ芸術の特色である享乐的で装飾的な作品を描く一方、自由活発な精神で生命感あふれる人物画、風俗画や、詩情豊かな風景画を描いて、当時醸成されつつあった市民文化を反映する業績を残すなど、その活動の幅広さは当時のフランス画家の中でも群を抜いている。また時に彼は、19世紀印象派の先駆者ともみなされる。

この展覧会は、ワシントンとロンドンのナショナル・ギャラリー、ルーヴル美術館、メトロポリタン美術館、エルミタージュ美術館等、世界各国の公私の美術館や個人コレクターの好意を得て、日本においてフラゴナールのほぼ全貌を示す最初の展覧会となった。また世界的にも、1921年にパリで開かれたフラゴナール展以来60年ぶりの大きな展覧会であった。

講演会記録

「ヨーロッパ巨匠素描展」特別講演会

1979年11月10日

〈フォッグ美術館の歴史と特性について〉

ハーヴァード大学教授／フォッグ美術館東洋部長
ジョン・ローゼンフィールド

(通訳 渡辺康子)

11月17日

〈素描の意味と種類——イタリア画派を中心に〉

東京芸術大学教授 辻 茂

12月1日

〈フォッグ美術館所蔵素描の美術史上の位置〉

前フォッグ美術館長 アグネス・モンガン

(通訳 渡辺康子)

12月8日

〈西洋の素描——北方の作品を中心に〉

東京大学教授 前川誠郎

12月15日

〈ヨーロッパの素描の歴史〉

ハーヴァード大学教授／フォッグ美術館素描部長
コンラート・オーバーファー

(通訳 八重樫春樹)

「フラゴナール展」特別講演会

1980年3月22日

〈ロココ美術における感覚的な自由について〉

美術評論家 中山公男

3月29日

〈ロココの音楽〉

音楽評論家 遠山一行

昭和54年度主要記事

昭和54年

- 5月31日 新館竣工
- 6月8日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
1点の購入決定
ロレンツォ・レオンブルーノ・ダ・マントヴァ作油彩「キリスト降誕」
- 6月12日 建設省より新館の引渡しを受けた。
- 7月1日 国立西洋美術館処務規程の一部改正
- 8月29日 美術作品購入選考委員会開催
- 9月10日 新館増築に伴う本館改修工事完了
- 10月31日 新館増築に伴う環境整備工事完了
- 11月2日 新館竣工式を挙行
〃 新館開館記念特別展「ヨーロッパ巨匠素描展」開会式挙行
- 11月22日 エレナ・アルメイダからエレナ・アルメイダ作版画「人のいる絵(1, 2)」の寄贈を受けた。
〃 国立西洋美術館協会からエレナ・アルメイダ作版画「人のいる絵(3)」の寄贈を受けた。
- 12月7日 日本博物館協会と共催で昭和54年度博物館職員研修会(美術部門)を開催(講演, 館内見学, 研究協議等)
- 12月8日 同上(修復記録映画, 解説, 質疑等)
- 12月14日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
2点の購入決定
ジャン=マルク・ナティエ作油彩「マリー=アンリエット=ベルトレ・ド・ブルスフ夫人の肖像」
レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン作版画「聖家族のエジプトへの避難」
- 12月16日 「ヨーロッパ巨匠素描展」終了

昭和55年

- 1月6日 無料観覧日実施
- 2月3日 無料観覧日実施
- 2月12日 平野逸朗氏からジャン・デュビュッフェ作油彩「美しい尾の牝牛」の寄贈を受けた。
- 3月2日 無料観覧日実施
- 3月17日 「フラゴナール展」(読売新聞社共催)開会式挙行
- 3月18日 国立西洋美術館協会からルカス・ファン・レイデン作版画「洗礼者ヨハネの首をヘロデアの前へ運ぶ召使」の寄贈を受けた。
- 3月19日 美術作品購入選考委員会開催
6点の購入決定
ジョルジオ・ヴァザリー作油彩「ゲッセマネの祈り」
ジャン=オーギュスト=ドミニク・アングル作素描「ジュニー・ドラヴァレットの肖像」
オノレ・ドーミエ作油彩「マグダラのマリア」
ニコラ・ランクレ作油彩「眠る羊飼女」
アルプレヒト・デューラー作版画「ネメシス(運命)」
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー作版画「庭」
- 3月21日 美術作品購入価格審査委員会開催
- 3月25日 国立西洋美術館評議員会開催

規則の制定・改正

- 昭和54年7月1日「国立西洋美術館処務規程」の一部改正
(改正要旨)
学芸課の組織を改組し, 併せて各係の事務分掌の改正をした。

資料 1. 昭和54年度歳入実績額

項 目	金額 (単位 円)
1. 建物及物件貸付料	200,499
2. 版權及特許権等収入	382,800
3. 入場料等収入	34,333,980
4. 講習料	50,700
5. 不用物品売払代	110,340
6. 雑 収	85,142
計	35,163,461

2. 昭和54年度歳出予算額

項 目	金額 (単位 千円)	前年度比較増△減額 (単位 千円)
1. 人 件 費	150,877	2,529
2. 庶務部運営	16,017	△955
3. 事業部運営	181,695	5,496
(美術作品購入)	(160,600)	(5,500)
4. 特 別 展	57,335	0
5. 新館完成に伴う	106,998	103,807
6. 施設整備	9,682	110
計	522,604	110,987
官庁営繕費	818,710	192,108

3. 昭和54年観覧者一覧表——次ページ

4. 所蔵作品一覧

(昭和55年3月末現在)

種類	区分	当初所蔵	購 入	寄 贈	管理換	小 計	寄 託	合 計
		松方コレクション						
絵 画		194	47	32	6	279	24	303
素 描		80	12	8	1	101	6	107
版 画		24	64	46	0	134	0	134
彫 刻		63	10	11	0	84	3	87
工 芸		0	1	1	0	2	1	3
その他の資料		10	87	1	0	98	0	98
計		371	221	99	7	698	34	732

3. 昭和54年度観覧者一覧表

展覧会名	区分	開催 日数	個人観覧			団体観覧			無料 観覧日	優待 招待	合計	一日平均 観覧者数		
			一般	学生	小人	一般	学生	小人						
													計	計
平常展示	日	71	28,546	11,202	5,060	44,808	499	2,297	3,290	6,086	3,831	215	54,940	773
特別展 ヨロツバ巨匠素 描展		38	27,795	13,956	2,538	44,289	692	2,878	1,334	4,904		5,015 (640)	54,208 (640)	1,426
共催展 フラーナール展		12	35,585	11,058	8,680	55,323	242	138	433	813		4,757 (1,284)	60,893 (1,284)	5,074
合計		121	91,926	36,216	16,278	144,420	1,433	5,313	5,057	11,803	3,831	9,987 (1,924)	170,041 (1,924)	

(注) 「優待招待」欄の()は、特別招待日の入場者数を示す外数である。

職員名簿

昭和55年3月31日現在

国立西洋美術館評議員会評議員

(五十音順)

東京国立近代美術館長
安達 健二
日本芸術院長
有光 次郎
ブリヂストンタイヤ株式会社社長
石橋幹一郎
元東京国立博物館長
稲田 清助
日本芸術院会員・作家
井上 靖
評論家
今泉 篤男
京都国立近代美術館長
河北 倫明
東京国立博物館長
斎藤 正
日本学士院会員
高橋誠一郎
評論家
谷川 徹三
株式会社丸善相談役
司 忠
財団法人学徒援護会会長
寺中 作雄
元国立西洋美術館長
富永 惣一
東京都副知事
野村 銀一
公正取引委員会委員長
橋口 収
神奈川県立近代美術館長
土方 定一
株式会社前川国男建築設計事務所
代表取締役
前川 国男
国際文化会館理事長
松本 重治
前国立西洋美術館長
山田智三郎
日本学士院会員・東京大学名誉教授
脇村義太郎

国立西洋美術館職員

館長 内山 正
次長 橋本 真
庶務課
課長 文部事務官 新山 忠弘
課長補佐 山本 昌志
庶務係長 原口 和明
福祉主任 舟橋さち子
三瓶 泉
事務補佐員 武中 英子
畑 理恵子
守衛長 文部事務官 井上武運児
山王堂正行
戸矢 庄一
石井 茂夫
羽山 正公
長島 武夫
平山 節子
経理係長 白石 治美
内藤 満枝
玉木 茂
有森 健晴

用度係長 文部事務官 田島 庄平
施設主任 太田原 武
古山 則夫
佐藤 剛史
文部技官 白倉 由夫
大竹 乙弘
小宮 勝男
小谷松誠司

学芸課

課長 文部技官 富山 秀男
主任研究官
(併)企画広報係長 八重樫春樹
版画、素描係長
主任研究官
(併)絵画係長 生田 圓
資料係長
主任研究官
(併)彫刻係長 長谷川三郎
研究員 渡辺 康子
雪山 行二
有川 治男
文部事務官 田近 祥子

国立西洋美術館年報 NO. 14

発行 1981年3月31日

編集 国立西洋美術館 東京都台東区上野公園

製作 美術出版デザインセンター

印刷 凸版印刷株式会社

ANNUAL BULLETIN OF THE NATIONAL
MUSEUM OF WESTERN ART, NO. 14

Published: 31th March 1981 by The National Museum
of Western Art, Tokyo

Produced: Bijutsu Shuppan Design Center